

令和4年版

第49号

消防年報



つくば市消防本部

つくば市の花・鳥・木

平成9年11月30日制定



ホシザキユキノシタ

花

筑波山のみで自生するユキノシタ科の野草の一種で、かれんで美しい白い花を咲かせます。繁殖力があり、市天然記念物になっています。

昭和63年1月31日つくば市指定天然記念物

フクロウ

農村・人里環境を代表する鳥で森の哲学者ともいわれています。知恵と技術の象徴であり、学園都市を擁するつくば市にふさわしい鳥です。

鳥



ケヤキ

市内の随所で見られ、広く市民に親しまれている木です。

大きくて力強く、無限の発展を秘めている、つくば市にふさわしい木です。

木

はじめに

この年報は、令和4年中のつくば市消防の状況について、諸資料を総合的に集録し、消防現勢及び消防行政の現況を明らかにしたものであり、各方面で資料として広く利用され、地域防災の一助になれば幸いです。

なお、災害統計は暦年、事業概要は会計年度をもって表わしています。

令和5年7月

つくば市消防長 青木孝徳

つくば市消防本部消防歌

花の消防隊

作詞 松本英佑
作曲 只野通泰

一
むらさき薫る 筑波嶺の

ふもとに咲いた 男花

勇猛果敢 敏速の

誓いも堅く 警防の

使命に生きる 花の消防隊

二
世の為 人の為ならば

火の粉もかぶる 心意気

細心冷静 沈着の

瞳は清く 輝いて

倅せ見張る 花の消防隊

三
世界に誇る 学園の

ひらめく日の丸を 仰ぐとき

みなぎる志気 踊る胸

日本の明日を 築くため

命を燃やす 花の消防隊

インフォメーション

(2023年4月1日現在)

面積・人口・世帯	面積	人口	人口密度	世帯数
	※283.72/km ²	252,286人	889.2人/km ²	114,736世帯

予算・機構・人事	予算	署・所	職員数	消防団員数
	39億8,793万円 市民1人あたり15,807円	本部 1 消防署 3 分署 5	定数 365人 実数 340人	定数 1,200人 実数 877人

機械・施設	ポンプ・タンク車	特殊車両	救急車	水利
	小型動力ポンプ積載車 1台 ポンプ車 1台 タンク車 7台 (非常用) 2台	はしご車 2台 救助工作車 3台 化学車 2台 大型水槽車 1台 支援車 1台 震災対応重機 1台	高規格救急車 9台 非常用救急車 2台	消火栓 2,557基 防火水槽 2,228基 (プール等含む)

予防	防火対象物	危険物施設	市民防火クラブ	消防音楽隊
	総数 10,299件	製造所 5 貯蔵所 407 取扱所 212	クラブ数 11 クラブ員 930名	専任講師 1名 隊員 29名

※国土交通省国土地理院公表

令和4年中 火災・救急概要

火災・救急	火災件数	出火原因	救急件数	事故種別
	62件 5.8日に1件の割合で発生	1 放火及び放火の 疑い 20件 2 たばこ 7件 3 電気機器 6件 4 たき火 5件	10,920件 1日あたり29.9件	1 急病 65.0% 2 一般負傷 12.7% 3 交通 8.2%

目 次

第1章 概況と沿革

1	つくば市の概況	1
2	つくば市の歴史	2
3	つくば市消防の沿革	3
4	消防機関の名称・配置	13
5	応援協定・業務協定	14
6	組織体制	15
7	消防本部の事務分掌	16
8	消防署の事務分掌	19
9	防火団体	20

第2章 資 料

第1節 総務編

1	令和5年度つくば市一般会計予算(歳出)	21
2	消防予算と人口・世帯の割合	21
3	人口・世帯数の推移	22
4	消防力の現勢	22
5	消防職員の配置	23
6	消防吏員の年齢表	24
7	消防吏員の勤務年数	25
8	消防職員の変遷(過去10年間)	25
9	消防職員の教養	26
10	職員表彰	27
11	公務災害	28

第2節 予防編

1	消防法第7条に基づく消防同意取扱い件数(申請別)	29
2	消防法第7条に基づく消防同意取扱い件数(用途別)	30
3	消防用設備等検査済証の交付件数	31
4	防火対象物関係申請・届出状況	32
5	火災予防条例関係申請・届出状況	33
6	指定催しの指定	33
7	防火対象物の現況	34
8	避難訓練実施状況	35
9	広報活動状況	36
10	防火対象物表示制度状況	36

11	防火・防災管理講習会の開催状況	36
12	管内危険物施設数	37
13	危険物製造所等許可件数	37
14	危険物製造所等完成検査実施件数	37
15	危険物規制事務手数料	38
16	予防技術資格者の認定状況	38
17	火薬類取締法における許可件数・事務手数料	38
18	消防音楽隊	39

第3節 警防編

1	消防車両等	40
2	消防水利	41
3	消防器具保有状況	42
4	消防機関の出動状況	45

第4節 消防指令編

1	高機能消防指令センター	46
2	高機能消防指令システム系統	48
3	消防無線配置状況	49
4	通報件数	49
5	テレホンサービス利用状況	50
6	気象通報発表件数	51
7	気象状況	52
8	気象観測最大最小値	52

第5節 火災編

1	火災概況	53
2	地区別火災件数及び損害額	54
3	月別・時間帯別火災件数	55
4	曜日別火災件数	56
5	過去10年間の火災件数推移	56
6	主な出火原因	56
7	過去3年間の主な出火原因	57
8	出火原因による主な発火源・経過・着火物	57
9	火災統計	58

第6節 救急編

1	救急出場状況	64
2	救急出場の推移（過去10年間の救急出場状況）	65
3	月別救急活動	66
4	曜日別出場件数、搬送人員	67
5	時間別出場件数	67
6	署所別出場状況	68
7	現場到着所要時間別出場件数	68
8	収容所要時間別搬送人員	68
9	年齢区分別及び傷病程度別搬送人員	69
10	救急隊員の行った応急処置件数	70
11	応急手当て講習会開催状況	71

第7節 救助編

1	事故種別出動及び活動件数	72
2	事故種別救助人員及び車両別搬送人員	72
3	事故種別出動人員及び活動人員	72
4	事故種別出動車両台数	73
5	事故種別活動車両台数	73

第8節 消防団編

1	消防団の沿革	74
2	消防団員数	74
3	年齢・階級別消防団員数	75
4	消防団配備等の現況	75
5	消防団組織体制	76
6	火災出場件数及び出場人員	77
7	女性分団活動状況	77

第1章

概況と沿革



1 つくば市の概況

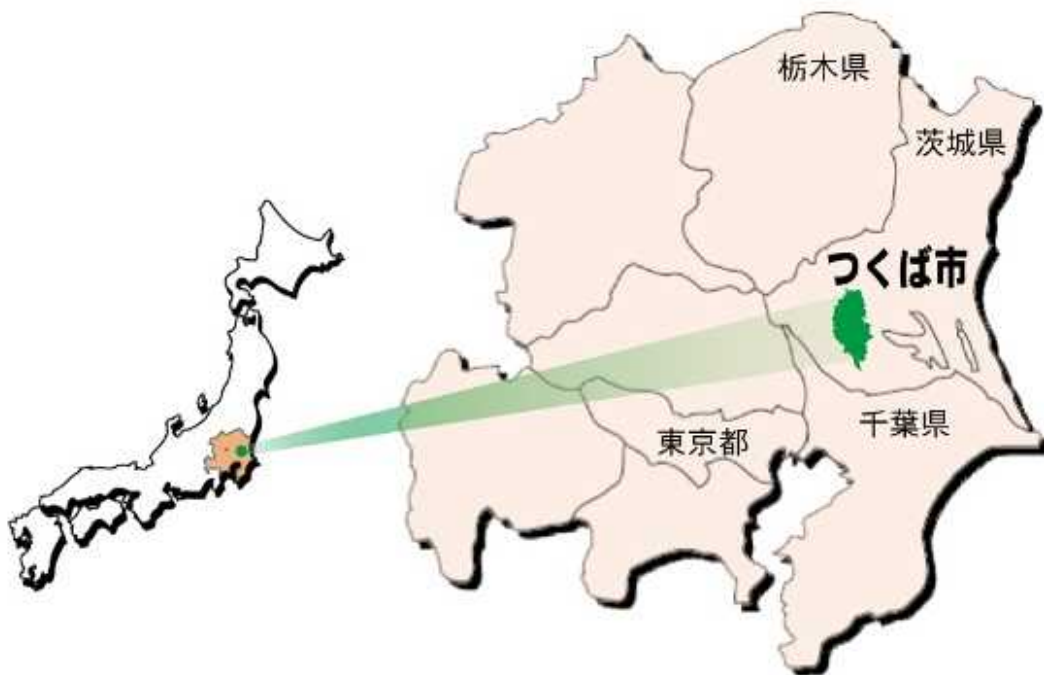
つくば市は、茨城県の南西部に位置し、茨城県の県庁所在地水戸市から南西に約 50 キロメートル、首都東京から北東に約 50 キロメートル、成田国際空港（成田市）から北西に約 40 キロメートルの距離に位置しています。面積は 283.72 平方キロメートルで、これは県内で 4 番目の広さになっています。

北に関東の名峰筑波山を擁し、東には我が国第 2 位の面積を有する霞ヶ浦を控え、あわせて水郷筑波国定公園に指定されています。

また、筑波山地域を除く市域の大部分は、筑波・稲敷台地と呼ばれる標高 20～30 メートルの関東ローム層に覆われた平坦な地形であり南北に流れる小貝川、桜川、谷田川、西谷田川などの河川は、周辺の平地林、畑地あるいは水田等と一体となって落ち着いた田園風景を醸し出しています。

市の中心部に位置する筑波研究学園都市は、東京等の国の試験研究機関等を計画的に移転することにより東京の過密緩和を図るとともに、高水準の研究と教育を行うための拠点的形成することを目的に国家プロジェクトとして建設されました。

つくばからノーベル賞受賞者も生まれるなど、研究機関等の集積をいかした世界的な科学技術拠点都市としての実績を着実に積み重ね、現在ではおよそ 2 万人の研究従事者を有する我が国最大のサイエンスシティとなっています。



2 つくば市の歴史

市 章



市章は、2つの「つ」を組み合わせ、図案化したもので、無限の発展とゆるぎない調和を表しています。ライトブルーは、澄んだ青空と SCIENCE（科学）を表し、ライトグリーンは輝かしい新緑と NATURE（自然）を表しています。

（平成元年4月11日制定）

江戸時代この地域一帯は、土浦藩土屋氏、谷田部藩細川氏などいくつかの領主の所領となり、明治維新に引き継がれます。

現在のつくば市を形成する旧6町村のうち大穂町、豊里町、谷田部町、桜村、筑波町の5町村は町村合併促進法により昭和30年前後に誕生しました。筑波郡大穂町は、昭和28年町制を施行、同年栗原村蓮沼を編入、翌31年吉沼村と合併し誕生しました。筑波郡豊里町は、昭和30年旭村、上郷町の配置分合で上郷町となり、同日豊里町と改名、翌年吉沼村の一部を編入し、誕生しました。筑波郡谷田部町は、昭和30年、谷田部町、真瀬村、（一部を除く）、島名村、小野川村、葛城村の1町4村が合併して誕生しました。新治郡桜村は、昭和30年、栄村、九重村、栗原村が合併して誕生しました。筑波郡筑波町は、昭和30年、筑波町、田井村、北条町、田水山村、小田村が合併して誕生、31年には

作岡村、32年には菅間村を編入しました。稲敷郡茎崎町、明治22年4月町村制の施行を契機に、小茎、高崎、上岩崎、下岩崎など11ヶ村を統合して誕生しました。

昭和38年9月に、研究学園都市の4つの候補地区（富士山麓、赤城、那須、筑波）の中から筑波が選ばれ閣議了解され、稲敷郡茎崎町を含めた5町1村は筑波研究学園都市を形成することとなり、開発・整備が進められました。

昭和60年に国際科学技術博覧会が開催されたのを機に、地元町村でも合併の機運が盛り上がり、「つくば」としての一体的な開発を目指し、昭和62年11月30日、学園都市を形成する3町1村が合併し、県内の自治体では20番目、全国では655番目の新市「つくば市」が誕生しました。以来2度の合併により、平成18年には人口が20万人を越え、平成19年4月に特例市に移行しました。

平成22年5月には、行政組織の一元化のため、つくば市誕生（昭和62年11月30日）以来の懸案事項であった新本庁舎を、つくばエクスプレス研究学園駅西側に開庁しました。

平成23年12月に、国際戦略総合特区に指定、平成25年3月には環境モデル都市に選定され、国際化などの環境整備は着々と進められております。また平成27年9月にはつくば市および周辺5市からなる筑波山地域が「日本ジオパーク」に認定されました。

市民憲章

豊かな自然と悠久の歴史にはぐくまれたまち、つくば。

私たちは、異なった価値観や文化を認め合いながら、互いを尊重し、ともに手を取りあって、未来に向かって発展するまちをつくります。

1. 思いやりのあふれる、やすらぎのまち
1. 世界と日本の多様な文化が出会い、融け合うまち
1. 世界が集い、世界にはばたくまち
1. 人類の夢を実現する科学のまち
1. 水と緑、きれいな空気と青い空 —人間と自然と科学が調和しながら共存するまち—

（平成10年11月30日制定）

3 つくば市消防の沿革

昭和 49 年	4 月	<p>新治郡桜村上ノ室の旧九重村役場跡を仮庁舎として、筑南地方広域行政事務組合消防本部、消防署を発足（1本部1署）</p> <p>消防長事務取扱いに組合管理者、横田栄一谷田部町長が就任、消防本部次長兼消防署長事務取扱い渡辺良二消防司令ほか 28 人の職員を採用、うち 22 人が茨城県消防学校に入校する。</p> <p>指令車を購入配置する。</p>
	6 月	救急自動車を購入配置する。
	7 月	<p>消防業務を開始する。</p> <p>消防ポンプ自動車を購入配置する。</p>
	8 月	日本船舶振興会から、救急自動車 1 台の寄贈を受ける。
	10 月	郵政省関東電波監理局から消防用無線電話装置基地局 1、移動局 5 の免許状が交付される。
	11 月	消防本部、消防署新庁舎を筑波郡谷田部町春日 2458 の 2 に着工
昭和 50 年	4 月	消防本部、消防署設置の政令指定を受ける。
	5 月	新消防庁舎竣工
	8 月	新庁舎に移転、業務を開始する。
	10 月	消防吏員 6 人採用（職員数 35 人）
	11 月	救助隊結成、訓練を開始する。
	12 月	はしご付消防ポンプ自動車（32M級）を購入配置する。
昭和 51 年	1 月	<p>連絡車を購入配置する。</p> <p>消防本部次長兼消防署長渡辺良二退職する。</p>
	2 月	筑南地方広域行政事務組合事務局長補佐牧島等、消防本部次長兼消防署長に就任する。
	4 月	消防吏員 5 人採用（職員数 40 人）
	6 月	消防本部 4 係制を 3 係制に改編する。（総務係、予防係、警防係）
	11 月	筑南広域圏消防連絡協議会を設立する。
昭和 52 年	3 月	<p>分署用車両として水槽付消防ポンプ自動車 2 台、指令車 2 台、救急自動車 1 台を購入する。</p> <p>筑波郡筑波町上沢 3 番地に北部分署庁舎を着工</p>
	4 月	分署用車両として救急自動車 1 台を購入する。
	5 月	消防吏員 43 人採用（職員数 83 人）
	6 月	広報車を購入配置する。
	7 月	<p>筑波郡筑波町上沢 1 番地、筑南地方広域行政事務組合第一衛生センターを仮庁舎とし北部分署を設置、稲敷郡茎崎村小茎の茎崎村公民館を仮庁舎とし南部分署を設置し、水槽付消防ポンプ自動車、救急自動車、指令車各 1 車両ずつを配置し、業務を開始する。（1本部1署2分署）</p> <p>北部分署庁舎竣工</p> <p>消防本部 3 係制を 2 係制に改編する。（総務係、警防係）</p>
	8 月	北部分署、新庁舎に移転し業務を開始する。
	9 月	消防長横田栄一退職する。

		堀田乾次郎筑波町長が消防本部消防長事務取扱いに就任する。
昭和 53 年	11 月	稲葉勝行大穂町長が消防本部消防長事務取扱いに就任する。
	5 月	消防吏員 10 人採用（職員数 93 人） 茨城県救急医療情報コントロールシステム地域情報本部（ディスプレイ装置）が通信指令室に設置される。
	8 月	ディスプレイ装置稼働開始
昭和 54 年	12 月	機械器具置場兼危険物倉庫新築
	4 月	消防吏員 2 人採用（職員数 93 人）
	5 月	消防本部 2 係制を 3 課制に改編する。（総務課、予防課、警防課）
	9 月	消防吏員 1 人を採用（職員数 93 人）
昭和 55 年	3 月	自治省消防庁の消防研修協会から、調査研究のためドクターカーが配置される。 郵政省関東電波監理局から、救急無線電話設置、基地局の免許状が交付される。
	4 月	消防本部次長兼消防署長牧島等離任する。 消防吏員 12 人採用（職員数 105 人）
	6 月	茨城県消防防災課副参事軍司尚四郎、消防本部次長兼消防署長に就任する。
	8 月	消防吏員 1 人採用（職員数 106 人）
	12 月	消防吏員 1 人採用（職員数 106 人）
昭和 56 年	3 月	日本損害保険協会から、救急自動車 1 台の寄贈を受ける。
	4 月	消防吏員 31 人採用（職員数 137 人） 南部分署庁舎竣工、新庁舎に移転し業務を開始する。 （谷田部町観音台 1 丁目 25 番地）
	6 月	指令車を購入配置する。
	9 月	テレホンサービス業務を開始する。
	12 月	西部出張所用車両として水槽付消防ポンプ自動車を購入する。
昭和 57 年	2 月	出動表示灯を設置する。 可搬用指令装置を購入配置する。
	3 月	通信指令室にシリーズコールシステムを導入する。
	4 月	消防吏員 4 人採用（職員数 140 人）
	5 月	消防本部次長兼消防署長軍司尚四郎離任する。 消防本部内に科学万博消防対策室を設置し、業務を開始する。 消防本部 3 課制を 3 課 1 室制に改編する。 （総務課、予防課、警防課、科学万博消防対策室）
	6 月	土浦市消防本部予防課長菅谷茂、消防本部次長兼消防署長に就任する。 豊里町上郷 607 番地に西部出張所庁舎を竣工、水槽付消防ポンプ自動車、連絡車各 1 台を配置し業務を開始する。（1 本部 1 署 2 分署 1 出張所） 筑南地方危険物安全協会から、連絡車 1 台の寄贈を受ける。
	7 月	西部出張所に油脂庫竣工
	8 月	消防本部訓練塔竣工
	9 月	西部出張所に救急自動車を配置し、業務を開始する。

昭和 58 年	1 月	<p>荃崎町小荃 288 番地（前、南部分署仮庁舎）に、南部分署荃崎分遣所を設置、水槽付消防ポンプ自動車を配置し業務を開始する。</p> <p>（1 本部 1 署 2 分署 1 出張所 1 分遣所）</p>	
	2 月	救助工作車を購入、本署に配置する。	
	4 月	消防吏員 7 人採用（職員数 146 人）	
	6 月	消防吏員 1 人採用（職員数 146 人）	
	7 月	西部出張所に出動表示灯を設置する。	
	8 月	消防吏員 1 人採用（職員数 146 人）	
	10 月	<p>消防本部の通信指令室を一部改築する。</p> <p>消防吏員 1 人採用（職員数 146 人）</p>	
	昭和 59 年	4 月	<p>北部分署に油脂庫竣工</p> <p>消防吏員 10 人採用、および科学万博消防対策室へ土浦市消防本部から 1 人派遣される。（職員数 155 人）</p>
		6 月	<p>消防本部次長兼消防署長菅谷茂離任する。</p> <p>消防本部総務課長兼消防署長に、中村輝夫就任する。</p>
		10 月	<p>科学万博会場内に科学万博消防署を開設し、慶野清消防署長以下 23 人、12 車両で業務を開始する。（1 本部 2 署 2 分署 1 出張所 1 分遣所）</p> <p>消防本部 3 課 1 室制を 3 課制に改編する。（総務課、予防課、警防課）</p> <p>科学万博消防署開設に伴い、関係町村から職員 12 人、および隣接消防本部から 2 人派遣される。（職員数 165 人）</p>
昭和 60 年	1 月	科学万博消防署へ隣接消防本部から 10 人派遣される。（職員数 179 人）	
	3 月	科学万博消防署へ隣接消防本部から 26 人派遣される。（職員数 205 人）	
	4 月	消防吏員 2 人採用（職員数 207 人）	
	6 月	指揮車を購入し消防本部に配置する。また、連絡車 1 台を更新する。	
	9 月	<p>科学万博消防署を閉署（派遣職員 41 人離任）</p> <p>（1 本部 1 署 2 分署 1 出張所 1 分遣所）</p>	
	10 月	<p>消防本部次長に、科学万博消防署長慶野清就任する。</p> <p>（財）国際科学技術博覧会協会から、屈折はしご付消防ポンプ自動車、化学消防車、水槽付消防ポンプ自動車各 1 台と、救急自動車 2 台の寄贈を受ける。</p> <p>消防本部・消防署の車庫を増築する。</p> <p>筑波郡筑波町沼田 3000 番地の旧沼田中学校を仮庁舎とし、北部分署筑波分遣所を設置、水槽付消防ポンプ自動車 1 台を配置し業務を開始する。</p>	
昭和 61 年	3 月	科学万博業務記念誌を発行する。	
	4 月	消防吏員 1 人採用（職員数 156 人）	
	10 月	広報車を購入、消防本部に配置する。	
昭和 62 年	11 月	行政バスを購入、消防本部に配置する。	
	1 月	<p>北部分署に整備ピットを設置する。</p> <p>消防吏員 1 人採用（職員数 156 人）</p>	
	2 月	<p>はしご付消防ポンプ自動車をオーバーホールする。</p> <p>通信指令装置関係を全面改修する。</p>	
	3 月	<p>消防吏員 1 人採用（職員数 156 人）</p> <p>消防本部庁舎の外壁を全面塗装する。</p>	

昭和 62 年	11 月	筑波町沼田字西川面 645 番地に、筑波分遣所庁舎を竣工、移転する。
		茎崎町小茎字上平 563 番地に、茎崎分遣所庁舎を竣工、移転する。
昭和 63 年	1 月 2 月 3 月 4 月 10 月	大穂町、豊里町、桜村、谷田部町が合併し、つくば市となる。
		つくば市に筑波町が編入合併する。
		消防長稲葉勝行離任する。
		消防本部次長慶野清、消防長職務代理者となる。
		消防長石川玄蔵、消防長に就任する。
平成元年	3 月 4 月 5 月 10 月	本署配置の消防ポンプ自動車と救急自動車を更新する。
		消防吏員 20 人採用（職員数 176 人）
		消防本部警防課 3 係制を 5 係制に改編する。（消防防災係、救急係、救助係、通信指令係、訓練指導係）
		本署配置の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
		各分遣所の救急自動車を更新する。
		消防吏員 20 人採用（職員数 194 人）
		消防長石川玄蔵消防正監に、次長慶野清消防監にそれぞれ昇任する。
		消防署の組織改革により、消防本部・消防署を中央消防署に、北部分署、南部分署をそれぞれ北消防署、南消防署に改める。また、出張所、各分遣所を分署に改める。（1 本部 3 署 3 分署）
		消防本部 3 課制を 4 課制に改編する。（総務課、予防課、警防課、訓練課）
		つくば市金田 2040 番地の 2 に中央消防署桜分署庁舎を竣工、救急自動車を配置し業務を開始する。（1 本部 3 署 4 分署）
平成 2 年	3 月 4 月 10 月	水槽付消防ポンプ自動車を購入、桜分署に配置する。
		日本損害協会から、救急自動車 1 台の寄贈を受ける。
		水槽付消防ポンプ自動車（8,000ℓ）を購入し、中央消防署に配置する。
平成 3 年	4 月 10 月 2 月 3 月 4 月 5 月 8 月 9 月 11 月 12 月	消防職員 3 人採用（職員数 213 人）
		消防吏員 16 人採用（職員数 210 人）
		緊急通報システムを導入する。
		北消防署配置の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
		西分署配置の救急自動車を更新する。
		消防本部庁舎を増築する。
		消防吏員 22 人採用（職員数 228 人）
		連絡車を購入、消防本部に配置する。
		連絡車（ワゴン車）を購入、消防本部に配置する。
		筑波分署配置の可搬ポンプ積載車を更新する。
筑南地方危険物安全協会から、連絡車 1 台の寄贈を受ける。		
平成 4 年	2 月 3 月 4 月	救急自動車に心電図伝送装置及び自動車電話を装備する。
		南消防署配置の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
		茎崎分署庁舎、筑波分署庁舎を増築する。
		北消防署、南消防署の庁舎を一部改修する。
	4 月	消防吏員 27 人採用（職員数 253 人）

平成4年	7月	日本消防協会から、救急自動車1台の寄贈を受ける。
	10月	救急救命士1人が誕生する。
	11月	消防長石川玄蔵離任する。
	12月	つくば市長木村操消防長に就任する。
平成5年	3月	消防ポンプ自動車兼救助工作車2台を購入し、北消防署、南消防署へ配置 筑波分署、荃崎分署にホース懸垂装置を設置する。 中央消防署の排水設備を改修する。
	4月	消防本部4課制を4課1室制に改編する。 (総務課、職員課、予防広報課、警防課、通信指令室) 消防吏員22人、消防職員5人採用(職員数273人)
	6月	中央消防署冷暖房設備改修する。
	10月	訓練塔車庫増築
平成6年	2月	山之内製薬株式会社から、高規格救急自動車1台の寄贈を受ける。 中央消防署配置のはしご付消防ポンプ自動車(32M級)を四輪操舵傾斜矯正 装置付の40M級はしご付消防ポンプ自動車に更新する。
	4月	消防吏員12人採用(職員数284人)
	6月	中央消防署、北消防署、南消防署に空調設備を設置する。
	10月	救急救命士2人となる。
平成7年	4月	消防吏員5人採用(職員数286人) 消防本部4課1室制を4課2室制に改編する。 (総務課、職員課、予防広報課、警防課、通信指令室、特殊災害対策室)
	8月	中央消防署配置の指令車を更新する。
	10月	救急救命士3人となる。 消防本部・署の交替制勤務者三部制となる。
	12月	中央消防署に化学防護服を配備する。
平成8年	1月	西分署配置の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
	2月	南消防署配置の救急自動車を更新する。
	3月	新消防緊急通信指令施設(発信地表示システム、車両運用監視装置等の導入) の運用開始
	4月	消防吏員4人採用(職員数290人)
	5月	消防長木村操離任する。 消防本部長慶野清消防長職務代理者となる。
	7月	西分署の連絡車を更新する。
	9月	中央署屈折はしご付消防ポンプ自動車をオーバーホールする。
平成9年	12月	つくば市長藤澤順一消防長事務取扱に就任する。
	2月	荃崎分署の水槽付消防ポンプ自動車及び救急自動車を更新する。 消防本部に連絡車を購入、配置する。 震災対策事業として、中央署に救護所用エアータント一式を配置する。
	4月	救急救命士4人となる。
	7月	筑波分署、荃崎分署配置の連絡車を更新する。
平成10年	12月	通信指令室緊急通報システム受信センター装置を更新する。
	2月	中央消防署配置の救助工作車を更新する。

		筑波分署配置の救急自動車を更新し、南消防署に高規格救急自動車を配置する。
平成 10 年	3 月	中央消防署旧訓練塔を解体し場内を整備改修する。 救急救命士 5 人となる。 消防長藤澤順一離任する。
	4 月	消防本部次長慶野清消防正監に昇任し、消防長に就任する。 フィリピンに救急自動車を寄贈する。
	11 月	救急救命士 6 人となる。
平成 11 年	1 月	桜分署配置の救急自動車を変更し、北消防署に高規格救急自動車を配置する。
	3 月	筑波分署の水槽付消防ポンプ自動車を更新する。
	4 月	北消防署、南消防署の連絡車を更新する。
	10 月	119 番 F A X の運用を開始する。
	11 月	救急救命士 7 人となる。
平成 12 年	1 月	西分署の救急自動車を更新する。
	2 月	消防本部の指揮車、中央消防署の資材搬送車を更新する。
	5 月	中央消防署の連絡車を更新する。
	9 月	桜分署の救急自動車を更新する。 キューバ共和国に救急自動車を寄贈する。
	11 月	救急救命士 8 人となる。
平成 13 年	2 月	中央消防署、北消防署及び南消防署に化学災害・放射線災害用資器材を配置する。
	3 月	救急救命士 9 人となる。
	5 月	消防本部及び全署所にインターネットを接続する。
	6 月	ホームページを開設する。 消防本部配置の連絡車（軽）2 台を 1 台の普通自動車ワゴンタイプに更新する。
		中央消防署事務室及び食堂の空調設備改修、増設工事を行う。
	7 月	通信指令室に危険性物質検索システムを導入する。
	8 月	北消防署に防火水槽型放水試験場を設置する。
	9 月	救急救命士 10 人となる。
平成 14 年	3 月	総務省消防庁から生物・化学テロ対応資機材を貸与される。 中央消防署配置の化学車を特殊災害対応化学車（Ⅲ型）に更新する。
	10 月	筑南地方広域行政事務組合解散する。
	11 月	つくば市に荃崎町が編入合併する。合併に伴い「つくば市消防本部」に名称を変更し、消防本部 4 課 2 室制を 4 課 1 室制（消防総務課、予防広報課、警防課、通信指令室、地域消防課）に改め、西分署を豊里分署に改める。 救急救命士 11 人となる。
平成 15 年	2 月	中央消防署配置の高規格救急車を更新する。
	3 月	消防長慶野清退任する。
	4 月	消防本部次長大沼勝美消防正監に昇任し、消防長に就任する。 （職員数 286 人）
	10 月	災害通知メール配信サービスを開始する。

平成 15 年	12 月	救急救命士 12 人となる。
平成 16 年	3 月	都道府県指揮隊、救助隊、救急隊、消火隊、はしご隊及び毒物対応隊の 6 隊を緊急消防援助隊として登録する。 中央消防署配置の水槽付消防ポンプ自動車を災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車に更新する。
	4 月	消防吏員 3 人採用（職員数 288 人） 非常時災害情報収集 Web カメラシステムの運用を開始する。 救急救命士 15 人となる。
	10 月	南消防署に高圧噴霧放水銃インパルス消火システムを配備する。 つくば市消防本部 30 周年記念式典を開催する 30 周年記念誌「消防本部のあゆみ」を刊行する。
	12 月	救急救命士 16 人となる。
平成 17 年	2 月	中央消防署配置の普通消防ポンプ自動車を災害対応特殊消防ポンプ自動車に更新する。
	3 月	中央消防署桜分署の水槽付消防ポンプ自動車を災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車に更新する。
	4 月	消防吏員 2 人採用（職員数 290 人）
	5 月	救急救命士 17 人となる。
	10 月	北消防署・南消防署配置の指令車を更新する。（2 台）
	12 月	救急救命士 18 人となる。
平成 18 年	3 月	中央消防署桜分署の救急車を高規格救急車に更新する。 高機能消防指令センター装置を更新する。
	4 月	消防本部 4 課 1 室制を 5 課制（消防総務課、予防広報課、警防課、消防指令課、地域消防課）に改編する。 消防吏員 13 人採用（職員数 303 人） 救急救命士 19 人となる。
	12 月	北消防署筑波分署の救急車を高規格救急車に更新する。 中央消防署配置の屈折はしご付消防ポンプ自動車を 15M 級災害対応特殊はしご付消防ポンプ自動車に更新する。
平成 19 年	4 月	消防吏員 15 人採用（職員数 314 人） 救急救命士 27 人となる。
	10 月	携帯電話・IP 電話発信地位置情報通知システム装置を導入する。
	11 月	北消防署筑波分署の可搬ポンプ積載車を更新する。
平成 20 年	3 月	南消防署荃崎分署の救急車を高規格救急車に更新する。 消防長大沼勝美退任する。
	4 月	消防本部次長口本信一消防正監に昇任し、消防長に就任する。 消防吏員 3 人採用（職員数 313 人） 救急救命士 29 人となる。 並木一丁目 2 番地 3 に中央消防署並木分署を竣工、水槽付消防ポンプ自動車、高規格救急車、連絡車各 1 台を配置し業務を開始する。 （1 本部 3 署 5 分署）
	11 月	南消防署配置の高規格救急車を更新する。

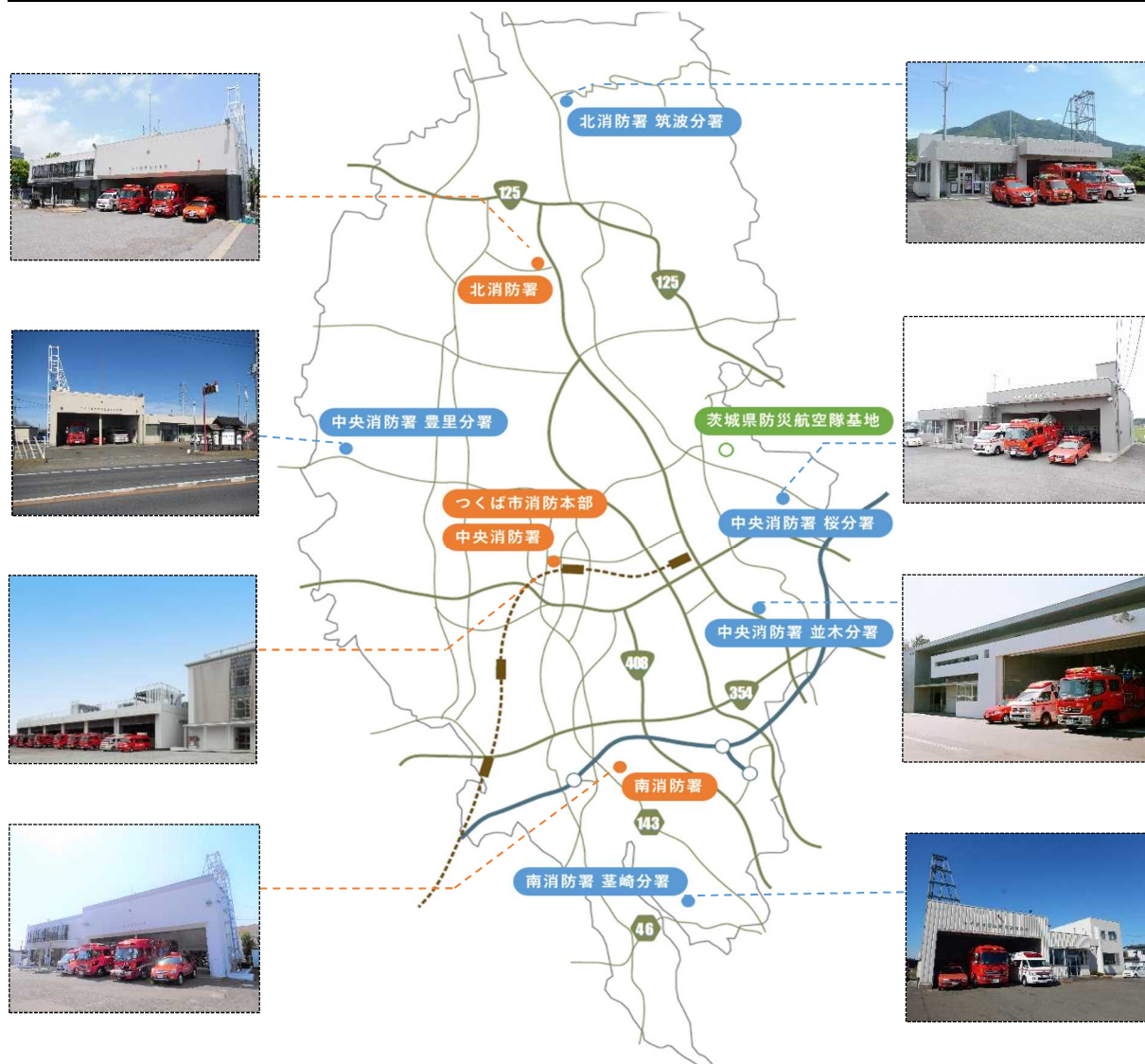
平成 21 年	3 月	消防長口本信一退任する。
	4 月	市長事務部局細田元久消防長に就任する。 消防吏員 5 人採用（職員数 314 人） 救急救命士 31 人となる。
	12 月	北消防署配置の普通消防ポンプ自動車を災害対応特殊消防ポンプ自動車に更新する。
平成 22 年	3 月	中央消防署豊里分署の救急車を高規格救急車に更新する。 消防長細田元久退任する。
	4 月	市長事務部局川村晴一消防長に就任する。 消防吏員 6 人採用（職員数 315 人）
平成 23 年	2 月	南消防署配置の普通消防ポンプ自動車を災害対応特殊消防ポンプ自動車に更新する。
	3 月	総務省消防庁から緊急消防援助隊支援車が無償使用として配備される。 中央消防署の指揮車を更新する。 消防長川村晴一退任する。
	4 月	消防本部次長糸賀善巳消防正監に昇任し、消防長に就任する。 救急救命士 34 人となる。
	12 月	財団法人救急振興財団から、救急普及啓発広報車の寄贈を受ける。
平成 24 年	2 月	中央消防署配置の大型水槽車を更新する。
	3 月	消防長糸賀善巳退任する。 北消防署配置の高規格救急車を更新する。
	4 月	消防本部次長北嶋清消防正監に昇任し、消防長に就任する。 消防吏員 3 人採用（職員数 313 人） 救急救命士 35 人となる。
	平成 25 年	3 月
4 月		中央消防署署長櫻井正昭消防正監に昇任し、消防長に就任する。 消防吏員 6 人採用（職員数 315 人） 救急救命士 40 人となる。 総務省消防庁から緊急消防援助隊用の可搬衛星地球局一式を無償使用として配備される。
6 月		南消防署の救助工作車を更新する。
平成 26 年	3 月	消防長櫻井正昭退任する。
	4 月	消防本部次長中澤満夫消防正監に昇任し、消防長に就任する。 消防吏員 3 人採用（職員数 314 人） 救急救命士 44 人となる。
平成 27 年	2 月	つくば市研究学園一丁目 1 番地 1 に消防本部・中央消防署庁舎竣工する。
	3 月	消防本部・中央消防署、新庁舎に移転し業務を開始する。 高機能消防指令センター装置を更新する。 北消防署の救助工作車を更新する。

	4月	消防吏員9人採用（職員数315人） 救急救命士48人となる。
平成28年	2月	中央消防署桜分署配置の高規格救急車を更新する。
	3月	消防長中澤満夫退任する。
	4月	消防本部次長大山裕幸消防正監に昇任し、消防長に就任する。 消防吏員10人採用（職員数315人） 救急救命士51人となる。
	10月	消防吏員2人採用（職員数315人）
	11月	中央消防署豊里分署配置の普通消防ポンプ自動車を更新する。
平成29年	2月	北消防署筑波分署配置の高規格救急車を更新する。
	3月	つくば市職員定数条例が一部改正され、消防職員の定数が350名となる。
	4月	消防吏員6人採用（職員数315人） 救急救命士55人となる。
	10月	消防吏員12人採用（職員数327人）
	12月	南消防署荃崎分署配置の普通消防ポンプ自動車を更新する。
平成30年	2月	中央消防署の救助工作車を更新する。 高度救助用資機材を購入する。
	3月	消防長大山裕幸退任する。
	4月	消防本部次長植木利男消防正監に昇任し、消防長に就任する。 消防吏員17人採用（職員数333人） 救急救命士63人となる。
	10月	消防吏員11人採用（職員数342人）
平成31年	2月	中央消防署配置の40M級はしご付消防ポンプ自動車を更新する。
	3月	中央消防署並木分署配置の高規格救急車を更新する。
	4月	消防吏員13人採用（職員数330人） 救急救命士72人となる。 特別高度救助隊を発足する。 特殊災害対応隊を発足する。 山岳救助対応隊を発足する。
令和元年	10月	消防吏員4人採用（職員数331人）
令和2年	3月	高機能消防指令センター装置を部分更新する。
	3月	南消防署配置の高規格救急車を更新する。
	4月	消防本部5課制を6課制（消防総務課、予防広報課、消防救助課、救急課、消防指令課、地域消防課）に改編する。
	4月	消防吏員7人採用（職員数332人）
	4月	救急救命士78人となる。
	4月	北消防署筑波分署配置の普通消防ポンプ自動車を更新する。 消防職員向け一斉配信メールを開始する。
	10月	消防吏員4人採用（職員数335人）
	10月	救急救命士80人となる。
令和3年	3月	中央消防署配置の災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を災害対応特殊化学消防ポンプ自動車に更新する。

	3月	消防本部の指揮車を更新する。
	3月	中央消防署に高規格救急車を新規配置する。
	4月	消防吏員 11 人採用(職員 334 人)
	4月	救急救命士 82 人となる。
	4月	中央消防署に日勤救急隊を創設し運用を開始する。
	10月	消防吏員 5 人採用 (職員 337 人)
	10月	救急救命士 83 人となる。
	12月	南消防署荃崎分署配置の高規格救急車を更新する。
令和4年	2月	北消防署筑波分署配置の指令車を更新する。
	2月	中央消防署配置の搬送車を更新する。
	3月	中央消防署豊里分署配置の高規格救急車を更新する。
	3月	消防長植木利男退任する。
	4月	消防本部次長木村勝平消防正監に昇任し、消防長に就任する。
	4月	消防吏員 16 人採用 (職員 339 人)
	4月	救急救命士 93 人となる。
	10月	消防吏員 5 人採用 (職員 342 人)
	10月	救急救命士 94 人となる。
令和5年	3月	中央消防署桜分署配置の指令車を更新する。
	3月	南消防署荃崎分署配置の指令車を更新する。
	3月	北消防署配置の高規格救急車を更新する。
	3月	つくば市職員定数条例が一部改正され、消防職員の定数が 365 名となる。
	3月	消防長木村勝平退任する。
	4月	消防本部次長青木孝徳消防正監に昇任し、消防長に就任する。
	4月	消防吏員 12 人採用 (職員 340 人)
	4月	救急救命士 95 人となる。

4 消防機関の名称・配置

名称	位置	建物構造	面積 (㎡)			竣工年月
			建築面積	延べ面積	敷地面積	
消防本部	つくば市研究学園一丁目1番地1	庁舎・車庫棟 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 3階建 訓練塔 鉄骨造5階建	2,519.30	4,558.81	13,313.99	平成27年 2月
中央消防署						
〃 豊里分署	つくば市上郷606番地	鉄筋コンクリート造 平屋建	404.25	393.65	3,406.26	昭和57年 6月
〃 桜分署	つくば市金田2040番地2	鉄筋コンクリート造 平屋建	384.20	370.90	1,700.27	平成元年 10月
〃 並木分署	つくば市並木一丁目2番地3	鉄筋コンクリート造 2階建	518.40	745.52	3,000.00	平成20年 4月
北消防署	つくば市上沢3番地	鉄筋コンクリート造 2階建	522.45	710.32	4,989.73	昭和52年 7月
〃 筑波分署	つくば市沼田644番地	鉄筋コンクリート造 平屋建鉄骨2階建	335.92	384.22	1,481.94	昭和62年 3月
南消防署	つくば市観音台一丁目25番地3	鉄筋コンクリート造 2階建	518.87	739.53	3,500.00	昭和56年 4月
〃 荃崎分署	つくば市小荃563番地1	鉄筋コンクリート造 平屋建鉄骨2階建	344.18	391.59	1,377.00	昭和62年 3月



5 応援協定・業務協定

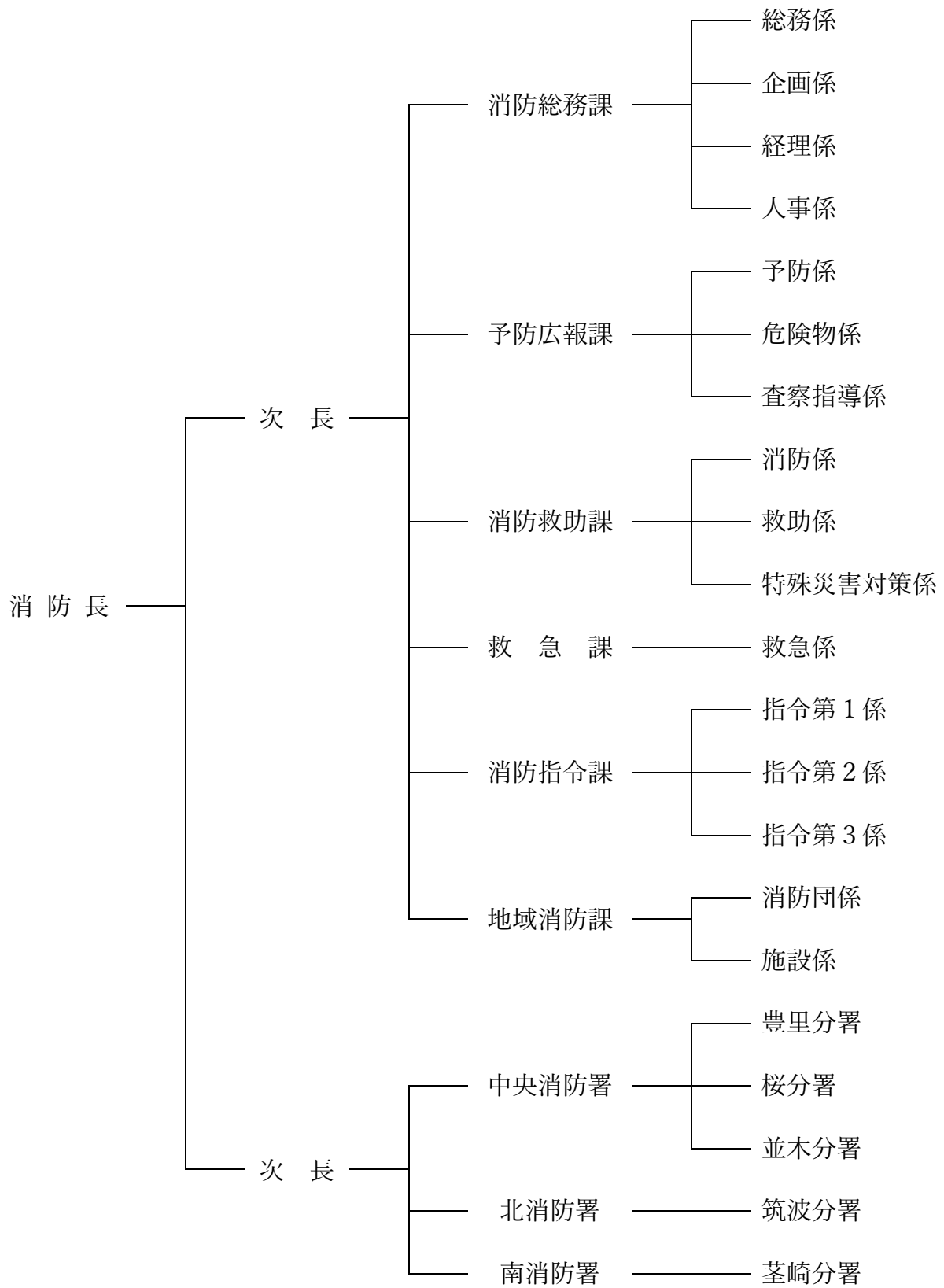
消防相互応援協定等の締結状況 (2023年4月1日現在)

協定等の名称・協定先	対象災害	応援体制(計画)	締結・最終改正年月日
・消防相互応援協定 ・近隣市町村	火災・救急(一部水害、警戒等含む)	普通応援 特別応援	昭和52年 平成27年7月23日 (改正)
・茨城県高速自動車道等における消防相互応援協定書 ・沿線市町村	火災・救急事故及びその他の災害	別に定める協定出場区域表に基づき行う。	昭和59年3月20日 令和元年10月1日 (改正)
・茨城県広域消防相互応援協定 ・茨城県下の全市町村	応援活動を必要とする全災害	別に定める応援隊編成表に基づき行う。	平成元年4月1日 平成29年3月6日 (改正)
・大規模災害消防応援実施計画 ・全国消防長会(全国の消防機関)	地震、台風、火山噴火等による大規模災害(当該地域の通常の消防体制では対応困難な場合)	応援出動計画(茨城県消防長会)に基づき行う。	平成7年10月19日
・緊急消防援助隊 ・総務省消防庁(全国の消防機関)	国内における地震等の大規模災害(当該地域の通常の消防体制では対応困難な場合)	大規模災害消防応援実施計画に伴う応援出動計画(茨城県消防長会)に準ずる。	平成7年10月30日
・大規模特殊災害時における広域航空消防応援隊 ・総務省消防庁(防災ヘリコプター保有市町村及び都道府県)	防災ヘリコプターを使用することが消防活動に極めて有効であると考えられる災害	大規模特殊災害時における広域航空消防応援実施要綱の別表に基づき行う。	平成4年3月23日 平成6年4月1日 (改正)

業務提携の締結状況

協 定 先	協 定 内 容	締 結 年 月 日
東京ガス株式会社常総支社・つくば支社	申し合わせ (一部変更)	昭和56年9月1日 (平成28年11月1日)
茨城県(つくばヘリポート)	業務協定	平成3年3月29日
陸上自衛隊 霞ヶ浦駐屯地	業務協定 (一部改正)	昭和56年9月20日 (平成8年1月20日)
東日本旅客鉄道株式会社	業務協定	平成19年6月1日
筑波観光鉄道株式会社	業務協定	平成19年8月23日
首都圏新都市鉄道株式会社 常総地方広域市町村圏事務組合消防本部	業務協定	平成21年3月27日
大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	業務協定	平成22年1月15日
国立研究開発法人産業技術総合研究所	業務協定	平成22年2月18日
国立研究開発法人物質・材料研究機構	業務協定	平成23年2月16日
公益財団法人筑波メディカルセンター病院 国立大学法人筑波大学附属病院.	業務協定	平成23年4月28日
一般財団法人日本自動車研究所	業務協定	平成23年8月8日
国立研究開発法人理化学研究所筑波研究所	業務協定	平成25年2月12日
陸上自衛隊施設学校 東日本高速株式会社関東支社谷和原管理事務所	申し合わせ	平成29年1月20日

6 組織体制



7 消防本部の事務分掌

課名	係名	事務分掌
消防総務課	総務係	(1) 公印の管守に関すること。 (2) 文書の收受、発送及び保存又は管理に関すること。 (3) 儀式及び各種会議並びに渉外に関すること。 (4) 消防協力者の表彰に関すること。 (5) 消防職員委員会に関すること。 (6) 消防長の権限に属する消防関係例規の制定及び改廃に関すること。 (7) 他の課等の所管に属さないこと。
	企画係	(1) 消防事務に係る重要施策及び重要事業の企画、調整及び進行管理に関すること。 (2) 消防関係諸機関との連絡調整に関すること。 (3) 消防統計に関すること。 (4) 消防年報の編集発行に関すること。
	経理係	(1) 消防本部の予算及び決算の取りまとめに関すること。 (2) 諸手数料等の徴収に関すること。 (3) 消防施設の整備及び維持管理に関すること。 (4) 物品の管理に関すること。
	人事係	(1) 消防職員の人事、服務、給与及び福利厚生に関すること。 (2) 消防職員の教育訓練及び研修に関すること。 (3) 消防職員の表彰に関すること。 (4) ハラスメントの防止に関すること。
予防広報課	予防係	(1) 建築確認等の同意に関すること。 (2) 消防用設備の設置指導及び検査に関すること。 (3) 防火管理及び防火基準適合表示等に関すること。 (4) 防火管理者の講習、資格管理及び指導育成に関すること。 (5) 火災の原因及び損害の調査に関すること。 (6) 火災調査資料の収集及び分析に関すること。 (7) 火災予防対策及び各種防火運動に関すること。 (8) 幼年・少年消防クラブ及び女性防火・防災クラブの指導育成に関すること。 (9) 防火・防災委員会に関すること。 (10) 火災(り災)証明に関すること。 (11) 火災統計、その他予防統計に関すること。 (12) 消防広報及び広聴に関すること。 (13) 消防報道に関すること。 (14) 消防音楽隊に関すること。 (15) 他の係の所管に属さないこと。

課 名	係 名	事 務 分 掌
予防広報課	危 険 物 係	(1) 危険物及び火薬類の許認可に関すること。 (2) 危険物及び火薬類の規制及び査察に関すること。 (3) 危険物取扱者の指導に関すること。 (4) 危険物及び火薬類による事故、災害の調査に関すること。 (5) 危険物及び火薬類の統計に関すること。 (6) 危険物安全協会に関すること。
	査察指導係	(1) 査察実施基本計画に関すること。 (2) 防火対象物に係る調査、企画及び調整に関すること。 (3) 防火対象物に係る査察、指導等に関すること。 (4) 防火対象物の違反処理に関すること。
消防救助課	消 防 係	(1) 警防計画及び消防訓練等の企画立案に関すること。 (2) 火災、風水害その他災害の対策に関すること。 (3) 消防相互応援及び警防計画に基づく関係機関との連絡調整に関すること。 (4) 非常招集に関すること。 (5) 消防隊の運用計画及び観察に関すること。 (6) 火災危険度の判定に関すること。 (7) 消防車両及び消防機器等の配備、整備その他維持管理に関すること。 (8) 消防技術の調査、研究及び指導に関すること。 (9) 開発行為に関すること。 (10) 警防統計に関すること。 (11) 他の係の所管に属さないこと。
	救 助 係	(1) 救助の企画立案に関すること。 (2) 救助対策に関すること。 (3) 救助統計に関すること。 (4) 救助技術の調査、研究及び指導に関すること。 (5) 救助資機材の管理に関すること。 (6) 救助高度化事業に関すること。 (7) 救助車両及び救助機器等の配備、整備その他維持管理に関すること。
	特 殊 災 害 対 策 係	(1) 特殊災害及び化学災害に係る警防計画の策定及び消防対策に関すること。 (2) 特殊災害及び化学災害事象の調査及び分析に関すること。 (3) 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律（昭和 42 年法律第 149 号）等に基づく意見書の交付に関すること。

課 名	係 名	事 務 分 掌
救 急 課	救 急 係	(1) 救急の企画立案に関する事。 (2) 救急対策に関する事。 (3) 救急統計に関する事。 (4) 救急技術の調査、研究及び指導に関する事。 (5) 救急医療機関との連絡調整に関する事。 (6) 救急証明に関する事。 (7) 救急資機材の管理に関する事。 (8) 患者等搬送業務担当職員の指導育成に関する事。 (9) 救急車両及び救急機器等の配備、整備その他維持管理に関する事。 (10) つくば・常総地区メディカルコントロール体制に関する事。
消防指令課	指令第1係 指令第2係 指令第3係 (3係による24時間勤務交替制)	(1) 通信施設及び機器等の管理運用及び配備計画に関する事。 (2) 消防緊急情報システムの調整及び運営管理に関する事。 (3) 通信技術の研究及び指導に関する事。 (4) 防災関係機関及び医療機関との連絡に関する事。 (5) 出場命令に関する事。 (6) 消防通信連絡及び通信統制に関する事。 (7) 気象情報及び災害情報の収集及び伝達に関する事。 (8) 火災警報及び消防信号に関する事。 (9) その他通信指令事務に関する事。
地域消防課	消 防 団 係	(1) 消防団の組織及び運営に関する事。 (2) 消防団員の任免、表彰及び報酬等に関する事。 (3) 消防団員の公務災害補償、福利厚生及び健康管理に関する事。 (4) 消防団員の教育訓練に関する事。 (5) 消防団員の被服に関する事。 (6) 消防協会に関する事。 (7) つくば市森林火災防止協会に関する事。 (8) 水防に関する事。 (9) 自衛消防に関する事。 (10) 関係機関との連絡調整に関する事。 (11) 他の係の所管に属さない事。
	施 設 係	(1) 防火水槽及び消火栓の設置及び管理等に関する事。 (2) 消防団無線の管理及び運用に関する事。 (3) 消防団車両及び施設等の整備及び管理に関する事。 (4) 消防団車両及び施設等の整備のための補助金申請に関する事。 (5) 消防団の各種契約及び検収等に関する事。

8 消防署の事務分掌

係名	事務分掌
総務係	(1) 公印の管守に関する事。 (2) 文書の収受、発送及び保管に関する事。 (3) 署員の人事、給与及び福利厚生等に関する事。 (4) 庁舎の維持管理及び備品の保管に関する事。 (5) 他の係の主管に属さない事。
予防係	(1) 建築物等の確認同意に関する事。 (2) 火災原因及び損害の調査に関する事。 (3) 火災予防思想の普及に関する事。 (4) 予防査察に関する事。 (5) 防火管理に関する事。 (6) 消防用設備等の設置指導及び検査に関する事。 (7) 火災予防条例に定められた各種届出の処理に関する事。 (8) 高圧ガス等の火災予防指導に関する事。
消防救助係	(1) 火災その他の災害の警戒防衛及び救助業務に関する事。 (2) 消防地理、水利、建物等の調査に関する事。 (3) 消防活動上支障となる届出に関する事。 (4) 消防用自動車、消防用資機材等の管理に関する事。 (5) 機関員の技術監理に関する事。 (6) 消防隊及び救助隊の訓練に関する事。 (7) 消防統計及び救助統計に関する事。
救急係	(1) 救急業務に関する事。 (2) 救急用自動車、救急用資機材等の管理に関する事。 (3) 応急手当の普及に関する事。 (4) 救急隊の訓練に関する事。 (5) 救急統計に関する事。

9 防火団体

(1) つくば市危険物安全協会

事務局 消防本部予防広報課

設立 昭和56年4月1日

会員数 182事業所（令和5年4月1日現在）

- ◎ 危険物の貯蔵の取り扱い及び管理についての研究
- ◎ 関係法令の研究及び周知徹底
- ◎ 危険物に起因する災害予防に関する広報及び講習会、映画会等の開催
- ◎ 危険物取扱者のための講習会等の開催
- ◎ 関係図書の購入、頒布及び斡旋
- ◎ その他、本会の目的を達成するために必要と認める事業

(2) つくば市幼年・少年・女性防火・防災委員会

事務局 消防本部予防広報課

設立 昭和62年7月13日

クラブ数 11クラブ

- ◎ 家庭及び地域における防火防災思想の普及啓発
- ◎ 防火、防災のための各種研修会及び訓練の実施
- ◎ 幼年・少年消防クラブ及び女性防火・防災クラブの育成指導及び設立拡充
- ◎ 各消防クラブ等関係組織相互間の連絡、調整
- ◎ その他委員会の目的達成のため必要と認める事業

つくば市幼年・少年消防クラブ及び女性防火・防災クラブ設立状況

(2023年4月1日現在)

名称	所在地	結成年月日	クラブ員数
並木 保育所 幼年消防クラブ	つくば市並木四丁目2-3	昭和62年10月3日	103名
大穂 幼稚園 幼年消防クラブ	つくば市篠崎557-1	昭和63年10月9日	31名
田中 保育園 幼年消防クラブ	つくば市水守554	昭和63年11月16日	120名
上横場 保育所 幼年消防クラブ	つくば市上横場1228	平成2年9月1日	88名
上郷 保育所 幼年消防クラブ	つくば市上郷2499	平成2年10月1日	59名
今鹿島 保育所 幼年消防クラブ	つくば市今鹿島5087	平成2年10月1日	60名
上郷 幼稚園 幼年消防クラブ	つくば市上郷2499	平成15年11月11日	17名
わかば 保育園 幼年消防クラブ	つくば市谷田部2061	平成16年11月25日	94名
みのり 幼稚園 幼年消防クラブ	つくば市高崎643-9	平成16年11月25日	204名
かやまるこども園 幼年消防クラブ	つくば市上萱丸154-1	令和4年10月6日	93名
荃崎 幼稚園 幼年消防クラブ	つくば市小荃798-1	令和5年4月1日	61名

内 訳

幼年消防クラブ員（11クラブ）合計 930名

第2章 資料

第1節 総務編



1 令和5年度つくば市一般会計予算（歳出）

款	区分	金額（千円）	構成比
議	会 費	403,336	0.4%
総	務 費	7,316,128	6.7%
民	生 費	44,802,790	41.3%
衛	生 費	7,025,924	6.5%
労	働 費	50,386	0%
農	林水産業費	1,759,349	1.6%
商	工 費	1,378,867	1.3%
土	木 費	11,981,291	11.0%

款	区分	金額（千円）	構成比
消	防 費	3,987,935	3.7%
教	育 費	22,803,410	21.0%
災	害復旧費	1	0%
公	債 費	6,375,491	5.9%
諸	支 出 金	425,092	0.4%
予	備 費	200,000	0.2%
合	計	108,510,000	100%

消防費の内訳

目	区 分	金 額（千円）	構 成 比
常	備 消 防 費	3,104,765	77.9%
非	常 備 消 防 費	448,596	11.2%
消	防 施 設 費	431,898	10.8%
水	防 費	2,676	0.1%
合	計	3,987,935	100%

2 消防予算と人口・世帯の割合

（2023年4月1日現在）

消 防 予 算 （千円）	人 口 （人）	世 帯 数	市民1人あたりの 消防費（円）	1世帯あたりの 消防費（円）
3,987,935	注1 252,286	114,736	15,807	34,757

注1：住民基本台帳の数値を掲載

3 人口・世帯数の推移

(各年4月1日現在)

区分	年別				
	H26	H27	H28	H29	H30
人口	218,109	220,166	223,771	226,781	230,310
世帯	91,186	92,786	94,903	97,017	99,131
面積 (km ²)	284.07	283.72	283.72	283.72	283.72
人口密度	767.8	776.0	778.7	799.3	811.7

区分	年別				
	H31	R2	R3	R4	R5
人口	233,868	238,014	242,866	247,399	252,286
世帯	101,706	104,782	108,194	111,071	114,736
面積 (km ²)	283.72	283.72	283.72	283.72	283.72
人口密度	824.3	839.0	856.0	872.0	889.2

4 消防力の現勢

(2023年4月1日現在)

区分		現 有 数
消防吏員		325人
署 所		8署所
消防車両等	タンク車	9(2)台
	はしご車	2台
	化学車	2台
	高規格救急車	11(2)台
	救助工作車	3台

() うち非常用車両

5 消防職員の配置

(2023年4月1日現在)

階級別 配置別		総 数	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 職
総数		340	1	5	29	95	47	30	61	57	15
消 防 本 部	小計	71	1	2	14	18	11	9	5		11
	消防長	1	1								
	次長	2		2							
	企画監	※(1)			※(1)						
	消防総務課	13			3	2	4	2			2
	予防広報課	11			2	2	3	2	1		1
	消防救助課	14			4	6	1	3			
	救急課	5			2	1			1		1
	消防指令課	18			3	7	3	2	3		
地域消防課	7									7	
中 央 消 防 署	小計	75		1	4	17	11	9	18	13	2
	署長	1		1							
	副署長	1			1						
	日勤者	7				2	2		1		2
	一班	22			1	5	3	3	5	5	
	二班	22			1	5	3	3	7	3	
	三班	22			1	5	3	3	5	5	
豊 里 分 署	小計	22			1	9	3	1	4	4	
	分署長	1			1						
	一班	7				3	1		2	1	
	二班	7				3	1		2	1	
	三班	7				3	1	1		2	
桜 分 署	小計	22			1	7	3	2	4	5	
	分署長	1			1						
	一班	7				3		1	2	1	
	二班	7				2	1	1	1	2	
三班	7				2	2		1	2		
並 木 分 署	小計	22			1	6	5	1	5	4	
	分署長	1			1						
	一班	7				2	2		2	1	
	二班	7				2	2		2	1	
	三班	7				2	1	1	1	2	
北 消 防 署	小計	42		1	3	10	5	3	7	12	1
	署長	1		1							
	日勤者	2				1					1
	一班	13			1	3	2	1	2	4	
	二班	13			1	3	2	1	2	4	
三班	13			1	3	1	1	3	4		
筑 波 分 署	小計	22			1	9	1	3	5	3	
	分署長	1			1						
	一班	7				3	1	1	1	1	
	二班	7				3		1	2	1	
三班	7				3		1	2	1		
南 消 防 署	小計	42		1	3	10	6	1	7	13	1
	署長	1		1							
	日勤者	2				1					1
	一班	13			1	3	2		2	5	
	二班	13			1	3	2		3	4	
三班	13			1	3	2	1	2	4		
茎 崎 分 署	小計	22			1	9	2	1	6	3	
	分署長	1			1						
	一班	7				3	1		2	1	
	二班	7				3	1		2	1	
三班	7				3		1	2	1		

※消防総務課職員兼務

6 消防吏員の年齢表

(2023年4月1日現在)

区分 年齢別	総数	消 防 吏 員							
		消 防 正 監	消防監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消防士
総数	325	1	5	29	95	47	30	61	57
18歳	0								
19歳	3								3
20歳	3								3
21歳	4								4
22歳	8								8
23歳	19								19
24歳	17							5	12
25歳	10							5	5
26歳	15							14	1
27歳	16							14	2
28歳	8							8	
29歳	11						4	7	
30歳	7						6	1	
31歳	8						4	4	
32歳	4						3	1	
33歳	4						4		
34歳	3					1	1	1	
35歳	3					2		1	
36歳	6					2	4		
37歳	6					4	2		
38歳	6					5	1		
39歳	9					9			
40歳	4				1	3			
41歳	7					7			
42歳	3				1	2			
43歳	1				1				
44歳	1					1			
45歳	1				1				
46歳	3				3				
47歳	6				5	1			
48歳	15				12	3			
49歳	20				14	5	1		
50歳	17				15	2			
51歳	13			2	11				
52歳	5				5				
53歳	14			4	10				
54歳	11			5	6				
55歳	7			3	4				
56歳	6		1	3	2				
57歳	8	1	1	5	1				
58歳	5		1	4					
59歳	8		2	3	3				
60歳以上	0								

※平均年齢 38.9歳（最高齢59歳、最低齢19歳）

7 消防吏員の勤務年数

(2023年4月1日現在)

勤務年数別	区分	総 数	消 防 吏 員							
			消 正 防 監	消防監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消防士
総 数		325	1	5	29	95	47	30	61	57
1年未満		17							1	16
1年以上 5年未満		64						2	21	41
5年以上 10年未満		52						14	38	
10年以上 15年未満		20					8	11	1	
15年以上 20年未満		34				4	28	2		
20年以上 25年未満		0								
25年以上 30年未満		19				15	4			
30年以上 35年未満		93		2	15	68	7	1		
35年以上		26	1	3	14	8				

8 消防職員の変遷（過去10年間）

(各年4月1日現在)

年 別		H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
区 分											
条 例 定 数		315	315	315	350	350	350	350	350	350	365
実 員	消防吏員	305	306	306	305	323	320	320	321	323	325
	その他の 職 員	9	9	9	10	10	10	12	13	16	15

9 消防職員の教養

(令和4年度)

区分／科・課程		内 容	日数	回数	人員	
消防 大学 校	総合 教育	幹 部 科	消防に関する高度の知識及び技術を総合的に修得させ、消防の上級幹部たるに相応しい人材を養成する。	47	1	1
		上 級 幹 部 科	消防に関する高度の知識及び技術を総合的に修得させ、現に消防の上級幹部である者の資質を向上させる。	17	1	1
	専科 教育	救 助 科	救助業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させるとともに、教育指導者等としての資質を向上させる。	52	1	1
茨城 県立 消防 学校	初任 教育	初 任 科	新たに採用された消防職員に対して職務の遂行に必要な基礎知識と技能を習得させる。	102	2	19
	専科 教育	警 防 科	大規模化、複雑多様化する災害に対応できる専門的知識及び技術を習得させる。	15	1	3
		危 険 物 科	危険物保安に関する高度の知識及び技術を専門的に修得させるとともに、教育指導者等としての資質を向上させる。	5	1	3
		火 災 調 査 科	火災調査業務の原因調査・損害調査及び鑑識能力を専門的に習得させる。	10	1	3
		救 急 科	救急隊員になるための専門的な知識及び技術を修得させる。	36	2	7
		救 助 科	災害現場における救助活動に必要な専門知識及び技術を習得させる。	24	1	3
		特 殊 災 害 科	特殊かつ異様な災害への対応を含め、災害の態様に応じた的確な消防活動要領を理解及び習得させる。	7	1	3

区分／科・課程		内 容	日数	回数	人員
総合研究所 放射線医学	N I R S 放射線 事故初動セミナー	放射線による被ばく若しくは放射性物質による汚染事象が起きた際の現場での対応、被災者の搬送などについて必要な知識と技能を修得し、各機関での中心的な役割を担える人を養成する。	4	3	3
筑波大学	消防職員惨事ストレス 初級研修	消防職員の惨事ストレスに関する知識の学習とグループミーティングの基礎的な実習を通して、消防職員の惨事ストレス対策を推進する要員を養成する。	2	1	2
消防庁	ドローン運用アドバイザー育成研修	実技訓練や座学を通じて、ドローン運用アドバイザーに必要な知識や技術、教育訓練技法等の習得を目的とする。	5	1	1

10 職員表彰

(令和4年度)

表 彰 区 分		消防正監	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
消防庁長官	永年勤続功労章		1						
日本消防協会	功績章		1						
	精績章								
	勤続章			2	17	4			
全国消防協会 関東地区支部	優良消防職員表彰								
全国消防長会	消防特別功労表彰								
	永年勤続功労者表彰				15	4			
茨城県知事	永年勤続功労章(勤続40年以上)			2					
	永年勤続功労章(勤続30年以上)			2	17	4			
消防長	職員功労表彰			1				1	
茨城県消防協会	消防職員表彰			2					
	永年勤続消防職員妻女表彰			1	16	2			

11 公務災害

(1) 令和4年度中の公務災害認定請求件数

請求別	原因・治療別 計	発生原因別							計	主治療別						
		消火活動	救助活動	救急活動	訓練	作業	通勤	その他		骨折	捻挫	打撲	挫創	切創	火傷傷	その他
請求	0								0							
認定	0								0							

(2) 過去5年間の公務災害認定件数

請求別	原因・治療別 計	発生原因別							計	主治療別						
		消火活動	救助活動	救急活動	訓練	作業	通勤	その他		骨折	捻挫	打撲	挫創	切創	火傷傷	その他
平成30年度	2	1			1				2	1	1					
令和元年度	0								0							
令和2年度	1							1	1	1						
令和3年度	2	1			1				2				1			1
令和4年度	0								0							

第2節 予防編

PROTECT YOUR
LIFE
PROTECT OUR
TSUKUBA

あなたの**命**を守るために

消防法及びつくば市火災予防条例によりすべての住宅に設置が義務付けられています

住宅用**火災**
警報器

1 消防法第7条に基づく消防同意取扱い件数（申請別）

（令和4年度）

申請要旨	同 意	
	令和4年度	令和3年度
計	363	380
新 築	324	339
増 築	28	30
改 築	3	3
移 設		
修 繕	1	1
模 様 替		
用途変更	4	4
そ の 他	3	3

2 消防法7条に基づく消防同意取扱い件数（用途別）

（令和4年度）

防火対象物の用途区分			同 意	
			令和4年度	令和3年度
計			363	380
1項	イ	劇場等		
	ロ	公会堂等	2	
2項	イ	キャバレー等		
	ロ	遊技場等		
	ハ	性風俗特殊営業店舗等		
	ニ	カラオケボックス等		
3項	イ	料理店等		
	ロ	飲食店	7	4
4項		百貨店等	18	24
5項	イ	旅館等	1	
	ロ	共同住宅等	43	47
6項	イ	病院等	13	12
	ロ	特別養護老人ホーム等	7	2
	ハ	老人デイサービスセンター等	19	10
	ニ	幼稚園等		
7項		学校	2	2
8項		図書館等		1
9項	イ	特殊浴場		
	ロ	一般浴場	1	
10項		停車場		
11項		神社・寺院等	1	
12項	イ	工場等	17	13
	ロ	スタジオ		
13項	イ	駐車場等	5	6
	ロ	航空機等格納庫		
14項		倉庫	28	29
15項		事務所等	87	96
16項	イ	特定複合用途防火対象物	16	14
	ロ	非特定複合用途防火対象物	5	6
専用住宅			91	114

3 消防用設備等検査済証の交付件数

(令和4年度)

防火対象物の用途区分			計	所 属 別			
				本 部	中央消防署	北消防署	南消防署
計			321	186	94	19	22
1 項	イ	劇場等	0				
	ロ	公会堂等	1			1	
2 項	イ	キャバレー等	0				
	ロ	遊技場等	0				
	ハ	性風俗特殊営業店舗等	0				
	ニ	カラオケボックス等	1		1		
3 項	イ	料理店等	0				
	ロ	飲食店	2		2		
4 項		百貨店等	13	2	8	1	2
5 項	イ	旅館等	4	4			
	ロ	共同住宅等	51	20	25	1	5
6 項	イ	病院等	12	5	6		1
	ロ	特別養護老人ホーム等	3		1	1	1
	ハ	老人デイサービスセンター等	23	2	16	2	3
	ニ	幼稚園等	3	2		1	
7 項		学校	29	25	3	1	
8 項		図書館等	0				
9 項	イ	特殊浴場	0				
	ロ	一般浴場	0				
10 項		停車場	1	1			
11 項		神社・寺院等	0				
12 項	イ	工場等	18	15		2	1
	ロ	スタジオ	0				
13 項	イ	駐車場等	4	3	1		
	ロ	航空機等格納庫	0				
14 項		倉庫	24	23			1
15 項		事務所等	85	58	20	3	4
16 項	イ	特定複合用途防火対象物	38	22	8	6	2
	ロ	非特定複合用途防火対象物	9	4	3		2
17 項		重要文化財	0				

4 防火対象物関係申請・届出状況

(令和4年度)

届出種別	計	所属別			
		本部	中央消防署	北消防署	南消防署
計	5,257	1,686	2,436	435	700
防火管理者選任（解任）届出	590	193	273	41	83
消防計画作成（変更）届出	649	200	312	53	84
統括防火管理者選任（解任）届出	11	9	2		
全体についての消防計画作成（変更）届出	4	3	1		
防災管理者選任（解任）届出	123	115	4		4
消防計画（変更）届出（防災管理）	119	114	5		
統括防災管理者選任（解任）届出	4	4			
全体についての消防計画作成（変更）届出（防災管理）	3	3			
自衛消防組織設置（変更）届出	14	3	7	1	3
消防用設備等着工届出	288	212	58	6	12
消防用設備等設置届出	927	456	345	52	74
消防用設備等基準の特例適用申請	35	31	2		2
消防用設備等点検結果報告	2,322	226	1,391	277	428
防火対象物点検結果報告	136	97	30		9
防災管理点検結果報告	32	20	6	5	1

5 火災予防条例関係申請・届出状況

(令和4年度)

出種別	計	所属別			
		本部	中央消防署	北消防署	南消防署
計	1,519	211	863	231	214
禁止行為の解除承認申請	32	24	7		1
火災と紛らわしい煙又は火炎を発生おそれのある行為届出	334	1	183	97	53
煙火打上げ・仕掛け届出	64	6	14	8	36
催物開催届出	5		5		
道路工事届出	210	2	185	9	14
燃料電池・発電・変電・蓄電池設置届出	167	27	98	23	19
少量危険物・指定可燃物貯蔵取扱届出	97	2	49	21	25
火気使用設備設置届出	56	2	24	16	14
露店等の開設届出	121		102	16	3
防火対象物使用開始届出	407	147	170	41	49
その他	26		26		

6 指定催しの指定

(令和4年度)

催しの名称	開催期間	指定要件
_____	_____	_____

7 防火対象物の現況

(2023年4月1日現在) 延べ面積 150㎡以上

防火対象物の用途区分		防火対象物数		総数	5階以上	5階未満	地階のみ
計				10,299	606	9,693	0
1項	イ	劇場等		1		1	
	ロ	公会堂等		167		167	
2項	イ	キャバレー等		0			
	ロ	遊技場等		43		43	
	ハ	性風俗特殊営業店舗等		0			
	ニ	カラオケボックス等		6		6	
3項	イ	料理店等		0			
	ロ	飲食店		425		425	
4項		百貨店等		578		578	
5項	イ	旅館等		88	18	70	
	ロ	共同住宅等		3,229	356	2,873	
6項	イ	病院等		157	9	148	
	ロ	特別養護老人ホーム等		70	6	64	
	ハ	老人デイサービスセンター等		196	3	193	
	ニ	幼稚園等		78	2	76	
7項		学校		376	32	344	
8項		図書館等		18	1	17	
9項	イ	特殊浴場		0			
	ロ	一般浴場		4		4	
10項		停車場		6		6	
11項		神社・寺院等		27		27	
12項	イ	工場等		663	2	661	
	ロ	スタジオ		1		1	
13項	イ	駐車場等		95	4	91	
	ロ	航空機等格納庫		2		2	
14項		倉庫		663	2	661	
15項		事務所等		2,248	85	2,163	
16項	イ	特定複合用途防火対象物		889	64	825	
	ロ	非特定複合用途防火対象物		246	22	224	
17項		重要文化財		23		23	

8 避難訓練実施状況

(令和4年度)

訓練種別 用途	計	避難 訓練	防火 講話	防災 映画	消火器 訓練	消火栓 訓練	消防車 出向
計	2,675	1,258	218	45	878	10	266
劇場・集会所	85	33	8	2	29	1	12
遊技場・ダンスホール	8	7			1		
カラオケボックス	14	8			6		
料理店・飲食店	166	90			76		
百貨店・マーケット	333	214	1	2	115		1
旅館・ホテル	78	44	1	2	29	1	1
病院・診療所	76	48	1	3	24		
老人短期入所施設・養護 老人ホーム	300	142	27	6	92	2	31
保育所・老人福祉施設等	549	200	80	7	167		95
幼稚園・特別支援学校	67	30	11	3	13		10
学校	101	42	15	1	25		18
工場・作業所	90	37	8		35		10
その他の事業所	381	150	38	2	131	5	55
複合用途	305	167	13	17	92	1	15
自治会（共同住宅）	122	46	15		43		18

9 広報活動状況

(令和4年度)

所 属 種 別	計	本 部	中 央 消 防 署	豊 里 分 署	桜 分 署	並 木 分 署	北 消 防 署	筑 波 分 署	南 消 防 署	荃 崎 分 署
計	928	37	235	207	52	84	122	14	128	49
消防訓練指導	371	18	80	95	22	36	45		57	18
防火講話	282	18	80	37	15	32	25		57	18
消防施設の見学	70		60	2	2	2	4			
映画会	7		1				6			
火災予防運動期間中の広報	138		14	28	13	14	28	14	14	13
山林火災予防の広報	0									
その他の広報	60	1		45			14			

10 防火対象物表示制度状況

(令和4年度)

防火対象物の用途	表示マーク（銀） 交付対象物数	表示マーク（金） 交付対象物数
旅館・ホテル・宿泊所	0	2
複合用途防火対象物の内旅館・ホテル・宿泊所の用途を含むもの	0	1

11 防火・防災管理講習会の開催状況

(令和4年度)

講習種別	回数	受講者数
甲種防火管理新規講習	2	67
甲種防火管理再講習	1	53
乙種防火管理講習	0	0
防災管理新規講習	1	30
防災管理再講習	0	0
防火防災管理併催再講習	1	26
計	5	176

12 管内危険物施設数

(令和4年度)

製造所等の区分	計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所
	624	5	147	62	10	150	0	31	7	116	1	1	94

13 危険物製造所等許可件数

(令和4年度)

製造所等の区分	計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所
	59 (49)	5 (5)	4 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	23 (22)	0 (0)	0 (0)	22 (19)

※ () 内数字は変更許可の件数を再掲したもの。

14 危険物製造所等完成検査実施件数

(令和4年度)

製造所等の区分	計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所
	62 (51)	5 (5)	6 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	23 (22)	0 (0)	0 (0)	23 (21)

※ () 内数字は変更許可の件数を再掲したもの。

15 危険物規制事務手数料

(令和4年度)

種 別	件 数	金 額
設 置 ・ 変 更 許 可 申 請 手 数 料	59	1,496 千円
完 成 検 査 申 請 手 数 料	62	849 千円
完 成 検 査 前 検 査 申 請 手 数 料 (少量危険物等タンク検査申請含む)	0	0 千円
仮使用・仮貯蔵・仮取扱承認申請手数料	42	227 千円
計	163	2,572 千円

16 予防技術資格者の認定状況

(2023年4月1日現在)

種 別	合 計
防 火 査 察 専 門 員	57
消 防 設 備 等 専 門 員	16
危 険 物 専 門 員	17

※1人で複数の資格を有する場合は、重複して計上しています。

17 火薬類取締法における許可件数・事務手数料

(令和4年度)

種 別	件 数	金 額
譲 渡 許 可	1	1,200 円
譲 受 許 可	6	23,400 円
消 費 許 可	煙 火	47,400 円
	煙 火 以 外	0 円
計	17	72,000 円

18 消防音楽隊

(1) 結 成 平成2年5月

(2) 編 成 隊 員 29名・専任講師1名

(3) 階級別編成 (2023年4月1日現在)

階 級	計	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
構成人員	29	2	10	4	6	6	1

(4) 楽器の保有状況

(2023年4月1日現在)

打楽器	数	金管楽器	数	木管楽器	数
コンサートグロッケン	1	トランペット	4	ピッコロ	2
スネアドラム	2	ホルン	3	フルート	5
バスドラム	3	ユーフォニウム	3	クラリネット	7
ドラムセット	1	テナートロンボーン	2	バスクラリネット	1
ティンパニ	4	バストロンボーン	1	アルトサクソ	3
シロフォン	1	チューバ	2	テナーサクソ	2
ビブラフォン	1	スーザフォン	2	バリトンサクソ	1
シンバル	2	弦楽器	数	鍵盤楽器	数
マーチングタム	1	エレキベース	1	シンセサイザー	1
ボンゴ	1	/		/	
チャイム	1				

(5) 活動状況

(令和4年度)

区 分	消 防 関 係	そ の 他	計
演奏回数	1	2	3

第 3 節 警防編



1 消防車両等

(2023年4月1日現在)

種 別 所 属	計	水槽付ポンプ自動車	非常用消防自動車	大型水槽車	普通ポンプ自動車	はしご車・40m級	はしご車・15m級	化学車	救助工作車	高規格救急車	支援車	非常用救急自動車	小型動力ポンプ積載車	指揮車・指令車	連絡車	資材搬送車	重機	重機搬送車	地利調査用バイク	消防バス	救急普及啓発広報車	ボート搬送トレーラー
		計	69	7	2	1	1	1	1	2	3	9	1	2	1	9	17	1	1	1	6	1
消防本部	12										1			1	8					1	1	
中央消防署	20		1	1	1	1	1	2	1	2		2		1	2	1	1	1	2			
豊里分署	4	1								1				1	1							
桜分署	4	1								1				1	1							
並木分署	4	1								1				1	1							
北消防署	8	1	1						1	1				1	1				2			
筑波分署	5	1								1			1	1	1							
南消防署	8	1							1	1				1	1				2			1
荃崎分署	4	1								1				1	1							

令和4年度更新



桜分署指令車



荃崎分署指令車

2 消防水利

(2023年4月1日現在)

種 別 \ 署 別	総数	中央 消防署	豊里 分署	桜 分署	並木 分署	北 消防署	筑波 分署	南 消防署	荃崎 分署
総数	4,785	952	345	594	562	705	265	807	555
消火栓	2,557	584	113	379	349	334	108	411	279
公設消火栓	2,428	539	111	348	308	330	108	407	277
私設消火栓	129	45	2	31	41	4		4	2
公設防火水槽 (m ³)	1,419	218	174	156	100	231	78	235	227
20 以上～40 未満	241	35	32	22	17	51	6	37	41
40 以上～60 未満	832	124	80	117	74	92	41	131	173
60 以上～100 未満	319	58	62	17	6	76	30	62	8
100 以上	27	1			3	12	1	5	5
私設防火水槽 (m ³)	597	119	52	30	96	89	49	119	43
20 以上～40 未満	12	1	2	0	4	4	1	0	
40 以上～60 未満	362	82	24	20	66	46	29	72	23
60 以上～100 未満	207	32	25	9	24	37	16	45	19
100 以上	16	4	1	1	2	2	3	2	1
※飲料水兼用防火水槽 (m ³)	5	1			2	1			1
40 以上～100 未満	4	1			2	1			
100 以上	1								1
貯留水利	212	31	6	29	17	51	30	42	6
プール	53	10	3	6	14	10		7	3
池・濠等	159	21	3	23	3	41	30	35	3

※飲料水兼用防火水槽は公設防火水槽に含む。

3 消防器具保有状況

(2023年4月1日現在)

分類	品名	計	所属別保有数									
			本部	中央消防署	豊里分署	桜分署	並木分署	北消防署	筑波分署	南消防署	荃崎分署	
放水器具	小型動力ポンプ	4			1	1				1		1
	高圧動力噴霧装置	8		1	1	1	1	2		1		1
	ホースカー	14		3	1	1	1	3	2	2		1
	フォグガン	13		3	1	1	1	2	1	3		1
	無反動ノズル	17		8	1	1	1	1	2	2		1
	放水銃	4		2	1							1
	高発泡ノズル	2		2								
	低発泡ノズル	14		4	1	1	1	2	1	2		2
	ウォーターチャージャー	8		1	1	1	1	1	1	1	1	1
	背負式ポンプ	65		15	6	6	5	14	8	5		6
簡易水槽	2	1						1				
照明器具	発動発電機 500以上1000未満	17	2	6		1	2	3	1	2		
	〃 1000以上1500未満	1								1		
	〃 1500以上2000未満	9	1	3	1			1	1	1	1	
	〃 2000以上2500未満	4	1	1		1		1				
	〃 2500以上3000未満	4		1				2		1		
	〃 3000以上3500未満	3		1				1		1		
	〃 3500以上4000未満	0										
	〃 4000以上4500未満	0						0				
	〃 4500以上5000未満	2						1		1		
	〃 5000以上	2	2									
投光器一式	24		11	1	1	1	4	2	3		1	
保護器具	空気呼吸器(300型)	106		48	5	5	5	17	8	13		5
	簡易呼吸器	4		2				2				
	酸素呼吸器	7		3				2		2		
救助用器具	エンジンカッター	13		3	1	1	1	2	2	2		1
	ガス溶断機	4		2				1		1		
	チェーンソー	23		6	3	2	1	3	2	3		3
	空気鋸	6		2				2	1	1		
	エアーカーター	3		1				1		1		
	鉄線カッター	18		5	2	1	1	4	2	2		1
	万能斧	24		11	1	1	1	3	3	3		1
	削岩機	4		2				1		1		
	ハンマードリル	5		2				2		1		
	可搬式ウインチ	10		2	1		1	2	1	2		1
	マット型空気ジャッキ	5		2				2		1		

分類	品名	計	所属別保有数								
			本部	中央消防署	豊里分署	桜分署	並木分署	北消防署	筑波分署	南消防署	荃崎分署
救助用器具	油圧式救助器具	15		4	1		1	3	1	3	2
	空気式救助マット	3		1				1		1	
	救命索発射銃	3		1				1		1	
	送排風機	4		2				1		1	
	救命胴衣	290		83	22	24	22	47	25	45	22
	救命ボート	5		2				1		2	
	船外機	5		2				1		2	
	水中探査装置	1	1								
	携帯用拡声器	29		11	1	2	2	4	4	4	1
	マンホール救助器具	5		2				2		1	
	救助用支柱器具	2		2							
	チェーンブロック	1		1							
	簡易画像探査機	3		1				1		1	
	救助用降下機	1		1							
	コンクリート ・鉄筋切断チェーンソー	1		1							
	バスケット担架	12		4	1			3	1	2	1
	救命浮環	39		4	2	3	2	4	3	10	11
	緩降機	5		2				1		2	
	携帯用コンクリート破壊器具	5		2				2		1	
	カギ付梯子	16		6	1	1	1	3	1	2	1
	三連梯子	10		3	1			2	1	2	1
	二連梯子	6		2	1	1	0	2			
	ワイヤー梯子	4		2				1		1	
救急処置セット	9		2	1		1	2	1	1	1	
空気充填機	1		1								
山林火災用資機材	127		27	13	14	5	20	21	14	13	
車両移動器具	2		2								
特災用器具	耐熱性防火服	5		5							
	耐電用防護服	20		7	2			3	2	4	2
	耐電用防護手袋	50		20	2	4	1	11	3	7	2
	レベルA防護服 (陽圧式化学防護服)	19		19							
	レベルB防護服(化学防護服)	184		93	11	12	17	20	7	17	7
	レベルC防護服 (タイベックススーツ等)	323	3	61	8	4	26	108	4	88	21
	放射線防護消火服	16		5				7		4	

分類	品名	計	所属別保有数								
			本部	中央消防署	豊里分署	桜分署	並木分署	北消防署	筑波分署	南消防署	荃崎分署
特災用器具	被除染者用簡易衣服	176		176							
	防毒マスク	104	3	34	10	6	6	16	6	16	7
	防塵メガネ・マスク	311	59	68	22	22	22	38	22	36	22
	携帯警報機	46		21	4			8	4	9	
	有毒物質中和剤散布機セット	3		3							
	塩素ガス中和剤（クロレス）	2		2							
	有毒物質試料採取セット一式	2		2							
	酸・アルカリ対応用手袋	18		12		4					2
測定器具	複合型ガス測定器	14		4	1	1	2	2	1	2	1
	有毒ガス検知測定器 （検知管セット）	4		2				1		1	
	携帯用小型可燃性ガス検知警報器	33		13	2	2	2	4	2	6	2
	放射線測定器	27		17				6		4	
	ポケット線量計	76	3	25	4	4	4	16	4	12	4
救急用器具	人工呼吸器	11		4	1	1	1	1	1	1	1
	加湿流量計付酸素吸入装置	11		4	1	1	1	1	1	1	1
	電動式吸引器	22		8	2	2	2	2	2	2	2
	自動式心臓マッサージ装置	9		2	1	1	1	1	1	1	1
	保育器	6		1		1	1	1		1	1
	除細動器	11		4	1	1	1	1	1	1	1
	患者用観察用モニター	11		4	1	1	1	1	1	1	1
	自動式人工呼吸器	11		4	1	1	1	1	1	1	1
	レサシアン(リトルアン含む) (成人用)	48		11	2	4	6	9	5	6	5
	〃 (小児用)	24		8	2	0	4	8		2	
	〃 (乳幼児用)	25		8	2	1	5	5		4	
	AEDトレーナー	38		9	2	3	5	8	2	7	2
	気道管理訓練用カットモデル	7		1	1	1		1	1	1	1
	気道管理トレーナー（成人）	3		1				1		1	
	〃 (乳幼児用)	3		1				1		1	
	外傷モデルキット	1	1								
	オゾン殺菌装置	11		4	1	1	1	1	1	1	1
エアーテント	4	4									
その他	携帯無線機	42	3	14	3	3	3	5	4	4	3
	衛星携帯電話	2	2								

4 消防機関の出動状況

(2022年1月～12月)

区分	種別	計	火災	林野火災	風水害等の災害	演習訓練	訓練指導	警防調査	原因調査	特別警戒	遭難	予防査察	その他	火災の誤報	
														いたずら等	
計	回数	1,673	63	5	4	132	162	404	52	80	1	328	447	14	
	人員	7,913	1,115	85	17	657	687	1,417	308	251	5	1,182	2,274	204	
	車両台数	2,556	388	30	5	199	233	454	95	74	1	403	704	68	
中央消防署	回数	380	11	0	1	19	66	93	11	1	0	65	113	8	
	人員	1,757	167	0	6	135	249	293	61	4	0	228	614	106	
	車両台数	581	56	0	2	48	86	103	16	2	0	89	179	36	
豊里分署	回数	159	11	4	0	7	11	35	8	18	0	33	36	1	
	人員	781	126	54	0	59	59	133	44	54	0	118	188	9	
	車両台数	264	42	19	0	19	19	45	15	18	0	43	63	3	
桜分署	回数	302	6	0	0	17	18	89	5	20	0	92	55	1	
	人員	1,139	94	0	0	53	65	277	29	69	0	289	263	3	
	車両台数	380	34	0	0	19	21	92	10	21	0	96	87	1	
並木分署	回数	116	4	0	0	2	10	10	5	14	0	24	47	0	
	人員	585	121	0	0	8	42	35	24	42	0	107	206	0	
	車両台数	178	43	0	0	2	14	12	8	6	0	23	70	0	
北消防署	回数	241	14	0	0	12	16	66	12	13	0	45	63	0	
	人員	1,291	239	0	0	84	66	251	75	42	0	172	362	0	
	車両台数	415	85	0	0	19	21	75	23	13	0	65	114	0	
筑波分署	回数	103	6	1	1	16	6	28	2	8	1	13	22	1	
	人員	516	151	31	4	61	27	95	10	22	5	60	81	4	
	車両台数	182	54	11	1	25	14	31	3	8	1	18	27	1	
南消防署	回数	253	8	0	1	51	15	60	6	0	0	35	77	3	
	人員	1,198	157	0	4	172	64	217	46	0	0	119	419	82	
	車両台数	357	51	0	1	51	22	60	13	0	0	39	120	27	
荃崎分署	回数	119	3	0	1	8	20	23	3	6	0	21	34	0	
	人員	646	60	0	3	85	115	116	19	18	0	89	141	0	
	車両台数	199	23	0	1	16	36	36	7	6	0	30	44	0	

第 4 節 消防指令編



1 高機能消防指令センター

平成 27 年 3 月 16 日から運用を開始したこのシステムは、コンピューター技術と通信技術を駆使し、災害内容や規模に応じた消防自動車等の配備など、一連の処理を自動化し迅速かつ確実な指令管理能力を備え、火災・救助・救急等の災害対応を図るものです。

通報受付 119 番通報は、消防指令センターに入電します。

○指令台/指揮台

119 番通報から火災、救助、救急を受付し、各消防署に出動指令、消防自動車等への無線交信をするとともに、関係機関への連絡を行うもの。

○緊急通報システム N E T 1 1 9

聴覚や発話に障がいのある方が、携帯電話やスマートフォンのインターネット機能を利用して、簡単な画面操作で通報するもの。(登録制)

○F A X 1 1 9 受信装置

聴覚や発話に障がいのある方が、F A X を利用して通報するもの。(登録制)

○多言語コールサービス

日本語を話せない外国人から 119 番通報を着信した際、コールセンターの通訳を介して受付するもの。

災害地点特定

○統合型位置情報通知装置

固定電話・携帯電話・I P 電話からの 119 番通報受付時に通報場所情報を受信し、指令台モニターに地図情報等を表示するもの。

災害種別 通報情報を基に、火災・救急・救助等の災害種別を決定します。

出動指令 的確な出動指令を行います。

○自動出動指定装置

災害種別、発生場所から出動させる消防自動車等を自動指定して、各消防署へ出動指令をかけるもの。

○順次指令装置

火災の出動指令後に、災害情報を消防団員へ E メールで一斉配信し、関係機関には自

↓ 動音声で電話をかけるもの。

- 指令情報送信装置
各消防署に指令情報を送信するもの。

出 動

- ↓
- 指令情報出力装置・署所端末装置
各消防署にて指令情報を受信し、地図付きの指令書をプリントするもの。
 - 総合情報表示盤
消防自動車等の運用状況を表示するもの。
 - 災害対策用画像伝送装置
災害現場の状況を、対策本部のモニターに映像表示させるもの。
- ※テレホンサービス 火災・災害等の情報提供をするもの。
☎0180-99-2984
(令和5年7月1日から問い合わせ番号が029-855-2119へ変更)

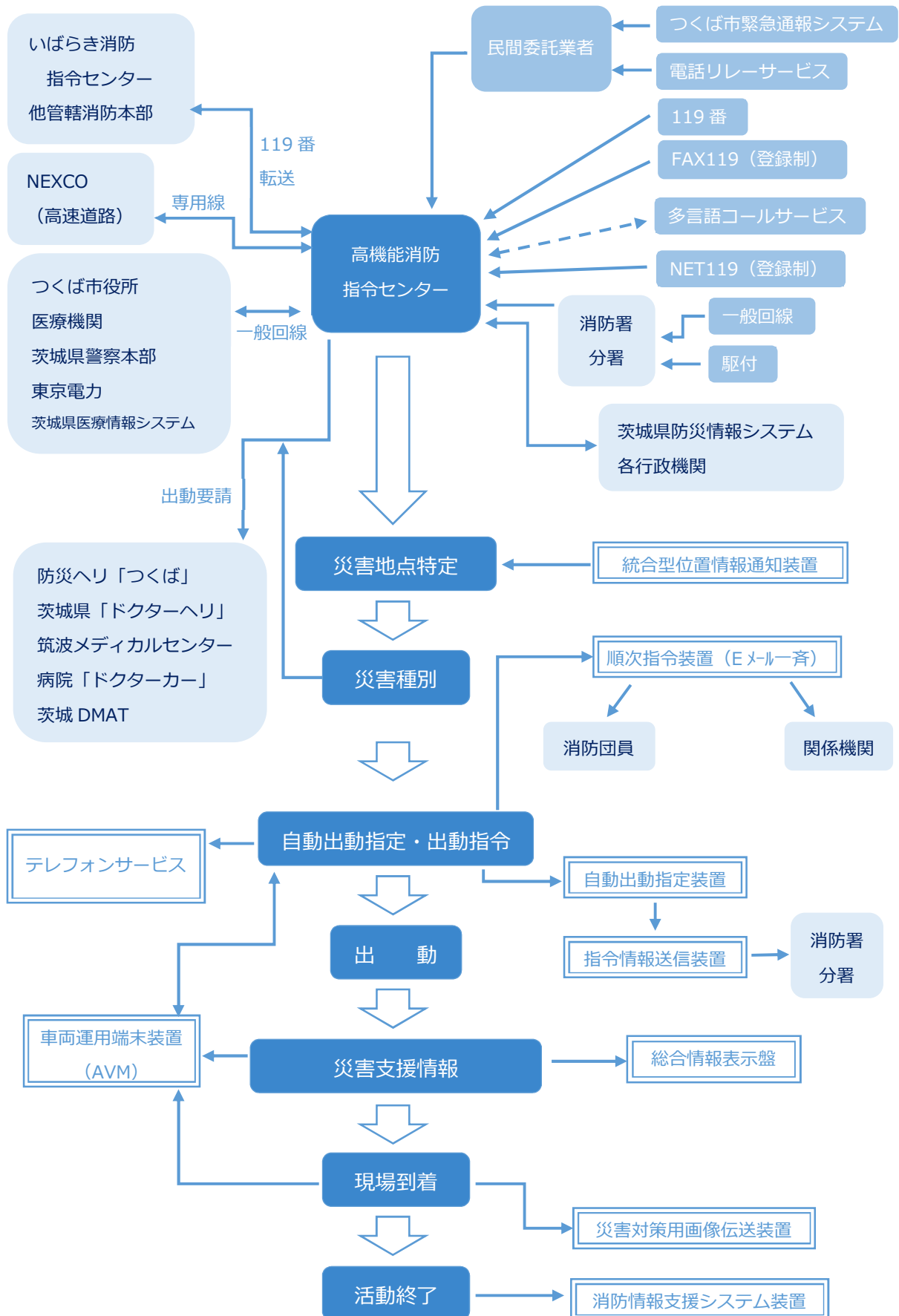
災害支援情報

- ↓
- 車両運用端末装置 (A V M)
消防自動車等に、地図付きの災害情報を表示させるもの。
 - 車載型・携帯型無線装置
消防指令センターと災害現場間で無線交信を行うもの。

活動終了

- 消防情報支援システム装置
全ての活動終了後、災害状況や活動内容はデータとして蓄積され、各種統計や、類似災害の消防活動に活かされます。

2 高機能消防指令システム系統



3 消防無線配置状況

(2023年4月1日現在)

運用波	主運用波	統制波 1 統制波 2 統制波 3		活動波 1 活動波 2 活動波 3			
署所名	種別	車 載	携 帯		卓上型固定	署活系 (携帯)	計
			5W	2W			
本 部		3		3	1	4	11
中 央 消 防 署		14	1	13	1	22	51
豊 里 分 署		3		3	1	6	13
桜 分 署		3		3	1	6	13
並 木 分 署		3		3	1	6	13
北 消 防 署		5	1	5	1	11	23
筑 波 分 署		4		4	1	7	16
南 消 防 署		4	1	5	1	11	22
荃 崎 分 署		3		3	1	6	13
計		42	3	42	9	79	175

4 通報件数

(2022年1月～12月)

要請種別	着信件数	119番通報		119番以外の通報	NET119	FAX119	多言語
		固定・IP 電話	携帯電話				
火 災	89	19	58	12			
救 急	10,448	3,864	5,842	742	1	0	14
救 助	130	12	74	44			
災 害	410	51	189	170			
同 報	98	20	78	0			
病 院 案 内	519	96	423	0			
誤報・間違い	952	152	793	7			5
問 合 せ	1,036	232	758	46			4
訓練・試験等	1,516	1,071	421	24			
計	15,198	5,517	8,636	1,045	1	0	23

※同報は火災・救急・救助・災害の同一通報です。

※通報件数のため、実際の出動件数とは異なります。

5 テレフォンサービス利用状況

(2022年1月～12月)

	一般電話		携帯電話	合計	一日平均	
	茨城県内	県外				
1月	281	270	11	5,110	5,391	174
2月	257	253	4	4,060	4,317	154
3月	240	235	5	4,512	4,752	153
4月	102	88	14	2,528	2,630	88
5月	222	214	8	3,640	3,862	125
6月	176	169	7	3,366	3,542	118
7月	73	63	10	1,773	1,846	60
8月	228	219	9	3,644	3,872	125
9月	137	124	13	2,748	2,885	96
10月	129	120	9	2,705	2,834	91
11月	157	143	14	3,453	3,610	120
12月	139	135	4	2,840	2,979	96
合計	2,141	2,033	108	40,379	42,520	116

※火災・災害の問い合わせに対応する、音声合成による情報提供です。

☎0180-99-2984 (令和5年7月1日から問い合わせ番号が029-855-2119へ変更)

6 気象情報発表件数

(2022年1月～12月)

特別 警報	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
暴風													0
大雨													0
その他													0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
警報	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
暴風													0
大雨									2				2
洪水									1				1
その他	1												1
計	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	4
注意報	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
強風	4	5	6	3	2			2	1	2		7	32
大雨					2		3	2	4				11
洪水					1		1		4				6
大雪	2	2											4
低温	10	4											14
乾燥	13	11	7	4								2	37
濃霧	3		11	14	14	15	15	11	9	10	12	7	121
霜				2						4	6		12
雷	1	5	7	6	6	13	18	18	11	5	7	1	98
その他	1												1
計	34	27	31	29	25	28	37	33	29	21	25	17	336
注意 情報等	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
竜巻						2		1					3
その他													0
計	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3

※継続発表も1件として集計しています。

7 気象状況

(2022年1月～12月 つくば市消防本部観測 標高：25m)

	平均 風速 (m/s)	平均 風向 (m/s)	瞬間最 大風速 (m/s)	平均 気温 (°C)	最高 気温 (°C)	最低 気温 (°C)	時間最 大雨量 (mm)	月最大 雨量 (mm)	月積算 雨量 (mm)
1月	2.5	北西	21.3	3.2	13.3	-6.0	3.0	11.0	17.0
2月	2.5	北西	21.5	3.8	15.7	-4.5	3.0	18.0	54.0
3月	2.4	東北東	21.1	9.3	24.4	-1.4	7.0	35.0	87.5
4月	2.6	東北東	22.7	14.4	28.3	2.9	10.0	38.5	157.5
5月	2.3	東南東	20.6	18.1	32.2	8.0	17.5	35.5	125.0
6月	2.3	東北東	15.8	22.3	37.3	14.1	9.0	12.5	42.0
7月	2.5	南	15.0	27.0	37.9	20.4	31.0	70.5	122.5
8月	2.7	南	19.4	27.0	38.4	18.8	7.5	13.0	43.5
9月	2.4	東北東	21.3	23.7	32.9	14.6	46.0	83.5	265.5
10月	2.1	北北西	15.1	16.2	29.3	5.0	7.5	37.0	77.5
11月	1.8	北北西	18.4	12.9	23.2	3.6	4.5	28.5	46.5
12月	2.1	北北西	18.3	5.6	15.4	-2.7	3.5	13.5	31.5

8 気象観測最大最小値

(2022年1月～12月 つくば市消防本部観測 標高：25m)

観測項目	観測月日	観測値	
瞬間最大風速	令和4年4月26日 23時11分	22.7 (南)	m/s
最高気温	令和4年8月2日 15時19分	38.4	°C
最低気温	令和4年1月7日 5時20分	-6.0	°C
時間最大雨量	令和4年9月24日 3時00分	46.0	mm
日積算最大雨量	令和4年9月24日	83.5	mm
月積算最大雨量	令和4年9月	265.5	mm

第 5 節 火災編



1 火災概況

△：減

区分		2022年 (令和4年)	2021年 (令和3年)	比較
出火件数	合計	62	84	△22
	建物	30	39	△9
	林野	5	3	2
	車両	4	11	△7
	船舶	0	0	0
	航空機	0	0	0
	その他	23	31	△8
焼損棟数 (棟)	合計	41	56	△15
	全焼	12	16	△4
	半焼	2	2	0
	部分焼	14	22	△8
	ぼや	13	16	△3
損害額 (千円)	合計	86,721	153,862	△67,141
	建物	82,180	134,781	△52,601
	林野	0	0	0
	車両	720	15,838	△15,118
	船舶	0	0	0
	航空機	0	0	0
	その他	3,821	3,243	578
焼損面積	建物(m ²)	967	1,796	△829
	林野(a)	15	2	13
死傷者数	死者	0	2	△2
	負傷者	13	6	7
出火率(件/万人)		2.4	2.6	△0.2

※出火率とは人口1万人あたりの出火件数をいう。

1日当たりの火災概況

区分	出火件数	損害額(千円)	焼損面積	
令和4年	0.16件	237	建物(m ²)	2.64
			林野(a)	0.041

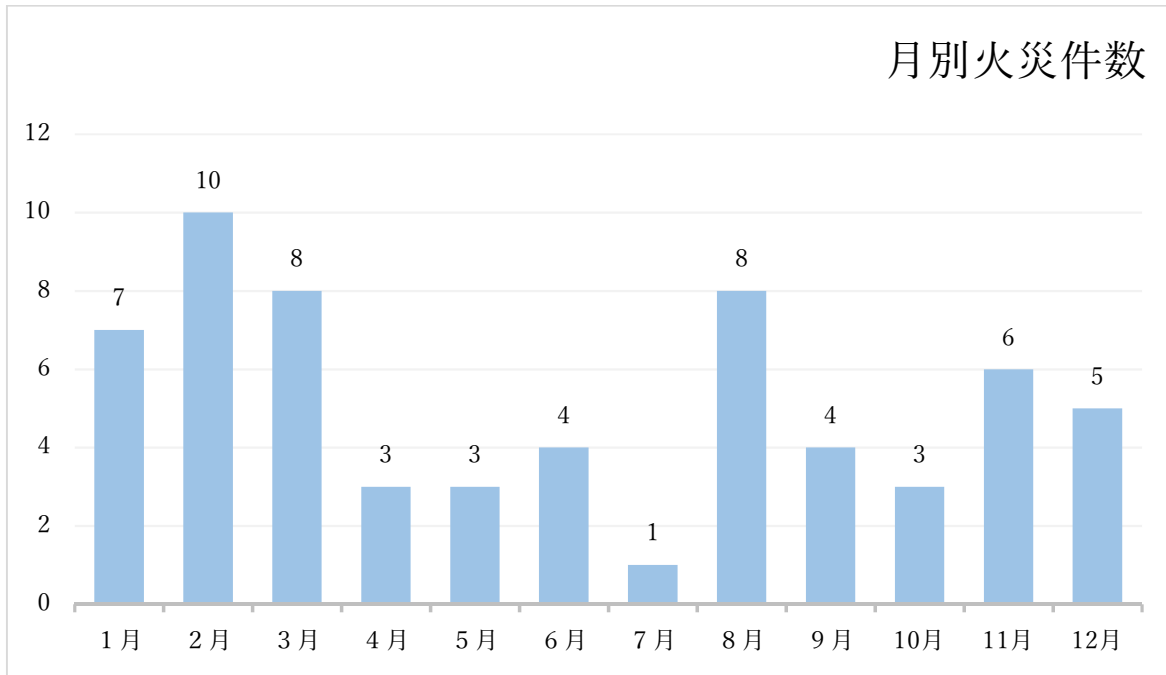
2 地区別火災件数及び損害額

(2022年1月～12月)

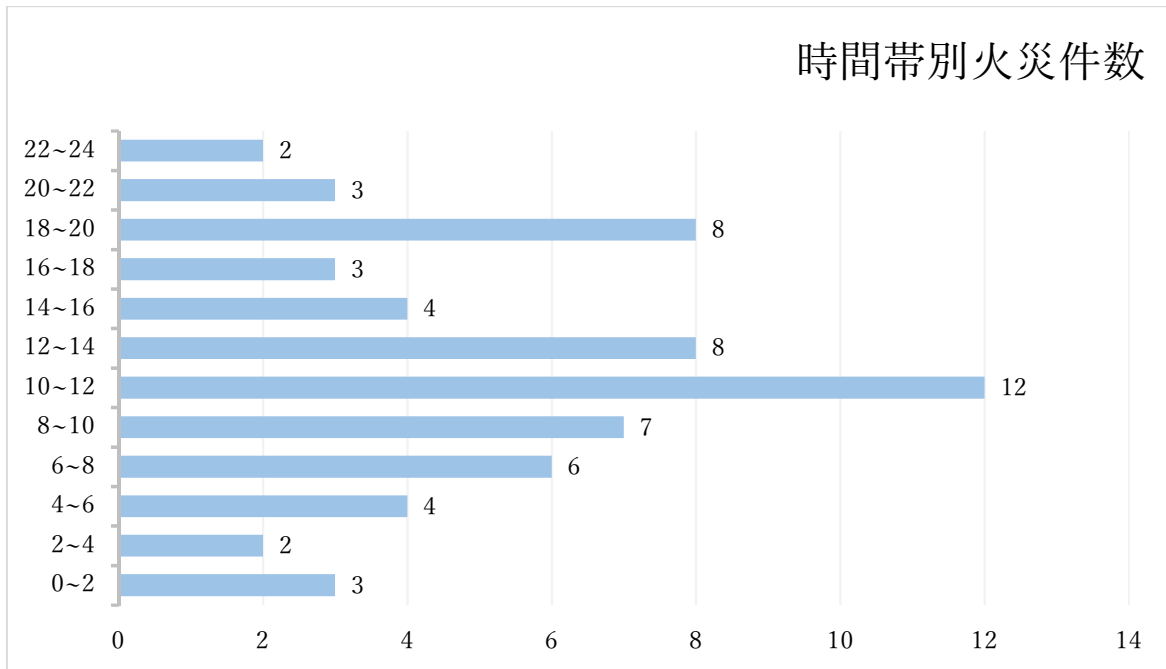
地区名	火災件数合計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
	損害額合計 (千円)						
筑波	13	6	1				6
	28,762	25,947	0				2,815
大穂	7	5					2
	20,400	19,471					929
豊里	11	2	3	1			5
	144	66	0	78			0
谷田部	18	8	1	3			6
	17,840	17,123	0	642			75
桜	10	6					4
	15,213	15,211					2
荃崎	3	3					
	4,362	4,362					
合計	62	30	5	4	0	0	23
	86,721	82,180	0	720	0	0	3,821

3 月別・時間帯別火災件数

(2022年1月～12月)



(2022年1月～12月)

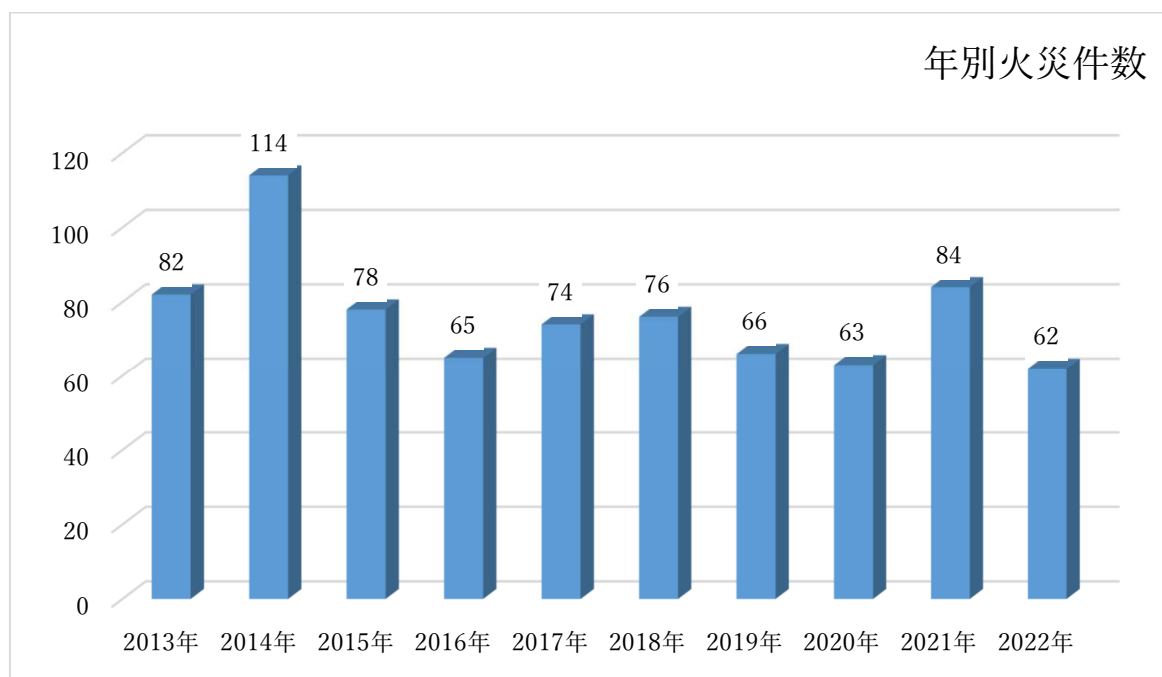


4 曜日別火災件数

(2022年1月～12月)

曜日	計	月	火	水	木	金	土	日
全火災	62	7	12	9	12	4	14	4
建物火災	30	5	5	4	6	2	8	0

5 過去10年間の火災件数推移



6 主な出火原因

(2022年1月～12月)

順位	原因	件数	火災総数に占める比率
1	放火・放火の疑い	20件	32.3%
2	たばこ	7件	11.3%
3	電気機器	6件	9.7%
4	たき火	5件	8.1%
5	ストーブ	4件	6.4%
6	電気配線	2件	3.2%
6	炉	2件	3.2%
—	その他	15件	24.2%
—	不明	1件	1.6%
合計		62件	100%

7 過去3年間の主な出火原因

順位 年・件数	1位	2位	3位	4位	5位
	2022年 総件数 62件	放火・ 放火の疑い 20件	たばこ 7件	電気機器 6件	たき火 5件
2021年 総件数 84件	たき火 17件	放火・ 放火の疑い 13件	たばこ 4件	電気配線 3件	電気機器等 ストーブ 各2件
2020年 総件数 63件	たき火 11件	放火・ 放火の疑い 8件	たばこ 6件	こんろ 電気機器等 各4件	電気配線 ストーブ 2件

8 出火原因による主な発火源・経過・着火物

(2022年1月～12月)

出火原因	発火源	経過	着火物
放火・放火の疑い (20件)	不明	放火・ 放火の疑い	枯草
たばこ (7件)	たばこ	不適當なところに捨て置く	ごみ屑
電気機器 (6件)	電気洗濯機及び 電気冷蔵庫	電線が短絡する	その他
たき火 (5件)	枯れ草焼き	火源が動いて接触する	枯草
ストーブ (4件)	ストーブ	放置する、忘れる	衣類

9 火災統計

(2022年1月～12月)

No.	出火日	出火時分	鎮火時分	覚知別	火災種別	死者	負傷者	全焼	半焼	部分	ぼや	焼損物件等
1	1月1日	0時20分	1時49分	119	その他							枯草及び原木 109㎡焼損
2	1月4日	6時57分	9時10分	119	建物		3	1		2		木造2階建て住宅149.445㎡全焼、車庫15.3㎡部分焼、車庫1.6㎡部分焼、普通乗用車1台、アマチュア無線のケーブル電気メーター、配線0.9㎡焼損、58歳女性1名軽症、62歳男性1名軽症及び30歳女性1名軽症
3	1月6日	1時15分	4時06分	119	建物			1				木造平屋建て住宅134.45㎡全焼
4	1月7日	17時05分	18時06分	119	建物						1	収容物のみ焼損(ぼや)
5	1月19日	10時30分	12時15分	119	建物		1		1	1	1	軽量鉄骨造2階建て住宅37.18㎡半焼、軽量鉄骨造2階建て住宅16.26㎡部分焼及び木造2階建て住宅1.68㎡ぼや及び82歳男性1名中等症
6	1月25日	10時48分	11時24分	119	その他							枯草1,600㎡焼損
7	1月25日	18時00分	18時56分	加入	車両							大型貨物自動車1台焼損
8	2月1日	6時00分	8時24分	119	建物						1	収容物のみ焼損(ぼや)

9	2月5日	11時40分	12時39分	119	その他							下草 1,672 m ² 、 エアコン室外機 及び配線カバー 焼損
10	2月6日	11時37分	12時21分	119	その他							枯草 320 m ² 及び 樹脂製の柵焼損
11	2月15日	7時30分	11時32分	事後 聞知	建物					1		木造平屋建て納 屋 2.16 m ² 部分 焼
12	2月22日	13時32分	14時41分	加入	その他							枯草 1,164.69 m ² 焼損
13	2月22日	14時27分	14時53分	119	その他							下草 138 m ² 及び 木製パレット焼 損
14	2月25日	14時40分	15時28分	119	その他							止め木 0.015 m ² 焼損
15	2月26日	10時00分	11時50分	119	建物					1		5階建て鉄筋コ ンクリート造共 同住宅 2階 203 号室 0.02 m ² ぼ や
16	2月27日	12時00分	12時39分	119	その他							芝畑 3,964.38 m ² 及びビニール 製トラロープ 116.1 m ² 焼損
17	2月27日	12時40分	13時49分	119	その他							植込み等焼損
18	3月2日	8時00分	8時36分	119	その他							枯草 508 m ² 焼損
19	3月9日	10時48分	13時16分	119	建物		1				1	木造2階建て歯 科医院兼住居 42.65 m ² 部分焼 及び61歳女性 1名軽症
20	3月11日	9時35分	10時28分	119	その他							畑及び芝畑 2,650.45 m ² 焼損
21	3月11日	12時53分	14時13分	119	その他		1					芝草 30,000 m ² 焼損及び84歳 女性1名中等症
22	3月14日	13時20分	14時54分	119	建物					1		アルミ製コンテ ナ倉庫 12.54 m ² 全焼

23	3月14日	18時30分	19時52分	119	林野							落葉、枯草及び立木 1,300 m ² 焼損
24	3月28日	5時15分	6時00分	119	建物		1					1 着衣焼損(ぼや) 69歳女性1名 中等症
25	3月31日	11時00分	11時56分	119	建物					1		木造2階建て長屋住宅 1.20 m ² 部分焼
26	4月9日	0時20分	0時42分	警察 電話	建物					1		木造2階建て住宅 0.32 m ² 部分焼
27	4月9日	16時32分	16時51分	119	建物		1			1		木造平屋建て飲食店 4.86 m ² 部分焼、テント1張り焼損及び41歳男性1名軽症
28	4月27日	21時43分	22時37分	119	その他							塀 4.26 m ² 焼損
29	5月2日	17時30分	18時55分	加入	建物						1	収容物の普通乗用車1台焼損(ぼや)
30	5月7日	8時50分	10時42分	119	建物					1		木造一部鉄骨造平屋建て倉庫 12.22 m ² 部分焼
31	5月7日	18時10分	19時52分	119	建物				4			木造1階建て住宅 120.41 m ² 全焼、木造平屋建て物置 46.6 m ² 全焼、カーポート 26.0 m ² 全焼及びカーポート 11.04 m ² 全焼、普通乗用車1台及びオートバイ1台焼損
32	6月2日	18時10分	19時52分	119	建物						1	収容物のみ焼損(ぼや)

33	6月13日	11時30分	12時05分	119	建物					1	木造2階建て住宅1.11㎡部分焼
34	6月22日	11時20分	12時19分	119	建物					1	鉄骨造平屋建て工場6.72㎡部分焼
35	6月25日	7時10分	11時57分	119	車両						大型貨物自動車1台及び木材チップ焼損
36	7月26日	9時10分	10時04分	119	建物		1			1	木造平屋建て納屋3.77㎡全焼、木造平屋建て農機具置場3.52㎡部分焼
37	8月4日	14時15分	14時36分	119	その他						枯草0.075㎡焼損
38	8月10日	13時30分	14時40分	警察電話	その他						雑草及び樹木19.2㎡焼損
39	8月11日	9時50分	11時13分	119	建物		1			1	収容物のみ焼損(ぼや)、34歳女性1名中等症
40	8月11日	8時50分	9時35分	事後 聞知	建物					1	収容物のみ焼損(ぼや)
41	8月24日	22時50分	23時29分	加入	その他						枯草341.7㎡焼損
42	8月25日	14時55分	15時33分	119	建物		1			1	木造2階建て住宅0.25㎡ぼや及び62歳女性1名軽症
43	8月26日	12時40分	13時29分	事後 聞知	建物					1	収容物のみ焼損(ぼや)
44	8月27日	11時20分	12時25分	119	建物		1	1		1	木造平屋建て住宅26.42㎡全焼及び木造平屋建て住宅11.9㎡部分焼 41歳男性1名中等症
45	9月8日	3時40分	10時00分	119	建物			2			木造平屋建て作業場414.4㎡全焼及びアルミ造平屋建てコンテナ11.25㎡全焼

46	9月10日	11時54分	12時31分	119	車両							普通乗用車1台 焼損
47	9月20日	9時15分	9時39分	119	車両							軽自動車1台 焼損
48	9月24日	3時10分	3時30分	事後 聞知	建物						1	木造平屋建て複 合用途防火対象 物0.84㎡ぼ や、積算電算計 2基、雨どい及 び電気配線焼損
49	10月4日	19時05分	20時10分	119	林野							枯草61.5㎡ 焼損
50	10月20日	10時46分	11時12分	加入	その 他							ビニールハウ ス、枯草2,555 ㎡及び雑草2.35 ㎡焼損
51	10月22日	22時18分	23時00分	119	建物						1	収容物のみ焼損 (ぼや)
52	11月6日	13時10分	13時15分	事後 聞知	その 他		1					ガスボンベ焼損 及び80歳男性 1名中等症
53	11月8日	19時20分	19時36分	事後 聞知	その 他							枯草9.39㎡ 焼損
54	11月12日	5時50分	6時25分	119	林野							枯草及び樹木 62.4㎡焼損
55	11月17日	20時05分	20時27分	119	林野							篠竹及び枯草 5.12㎡焼損
56	11月19日	7時00分	9時50分	事後 聞知	その 他							熊笹及び落葉 1.05㎡焼損
57	11月23日	5時30分	7時56分	119	建物						1	木造3階建て事 務所兼住宅 29.06㎡部分焼
58	12月8日	18時45分	19時13分	119	その 他							枯草及び篠竹 1.5㎡焼損
59	12月15日	18時20分	19時04分	119	林野							枯草86.625㎡ 焼損

60	12月27日	3時45分	6時38分	119	建物		1	1	1			木造2階建て住宅151.88㎡全焼、木造平屋建て車庫半焼、普通乗用車1台、立木55㎡焼損及び51歳男性1名重症	
61	12月28日	18時40分	19時55分	その他	その他							葦60㎡焼損	
62	12月29日	9時50分	11時14分	加入	その他							産業廃棄物用コンテナ1台焼損	
計							0	13	12	2	14	13	

第6節 救急編



1 救急出場状況

令和4年中の救急出場件数は10,920件で救急搬送人員は9,813人でした。前年と比較すると出場件数は、1,956件増加し、搬送人員は、1,523人の増加となっております。

また、1日平均29.9件、約48分に1回の割合で救急出場し、住民の約25人に1人が救急搬送されたことになります。

救急出場件数及び搬送人員

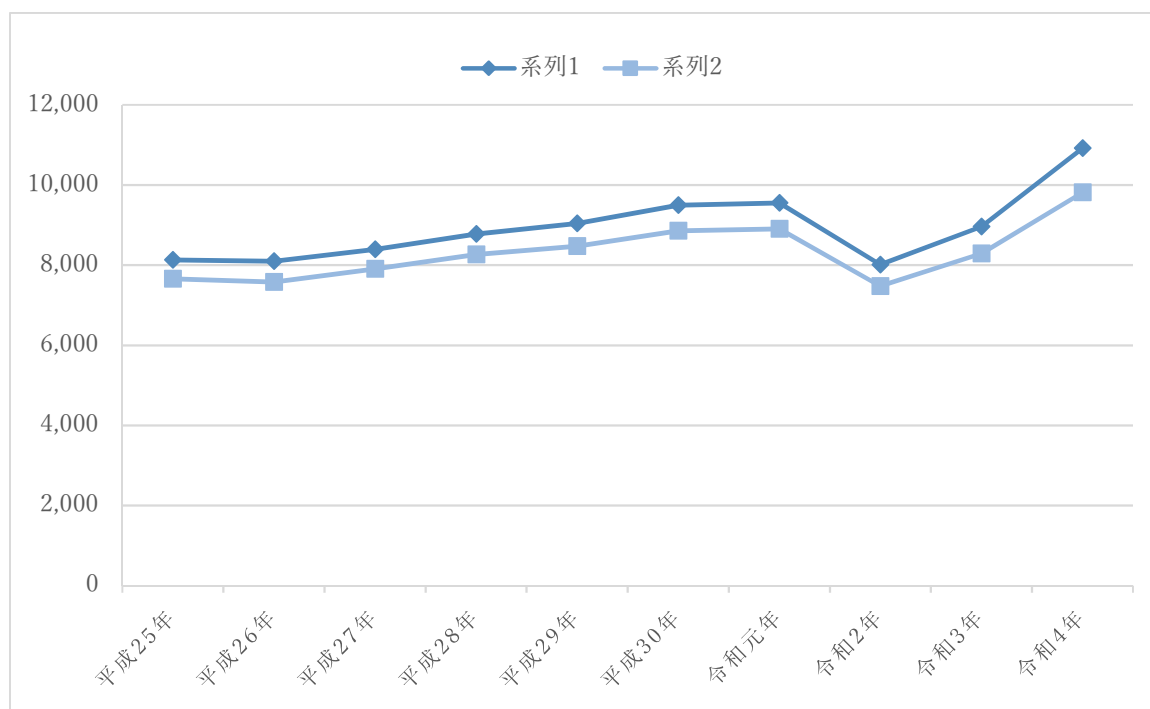
(2022年1月～12月)

区 分	令和4年	令和3年	増減件数	一日平均
出場件数	10,920	8,964	+1,956	29.9件
搬送件数	9,685	8,206	+1,479	26.53件
搬送人員	9,813	8,290	+1,523	26.8人
不搬送	1,235	758	+477	3.38件



2 救急出場の推移（過去10年間の救急出場状況）

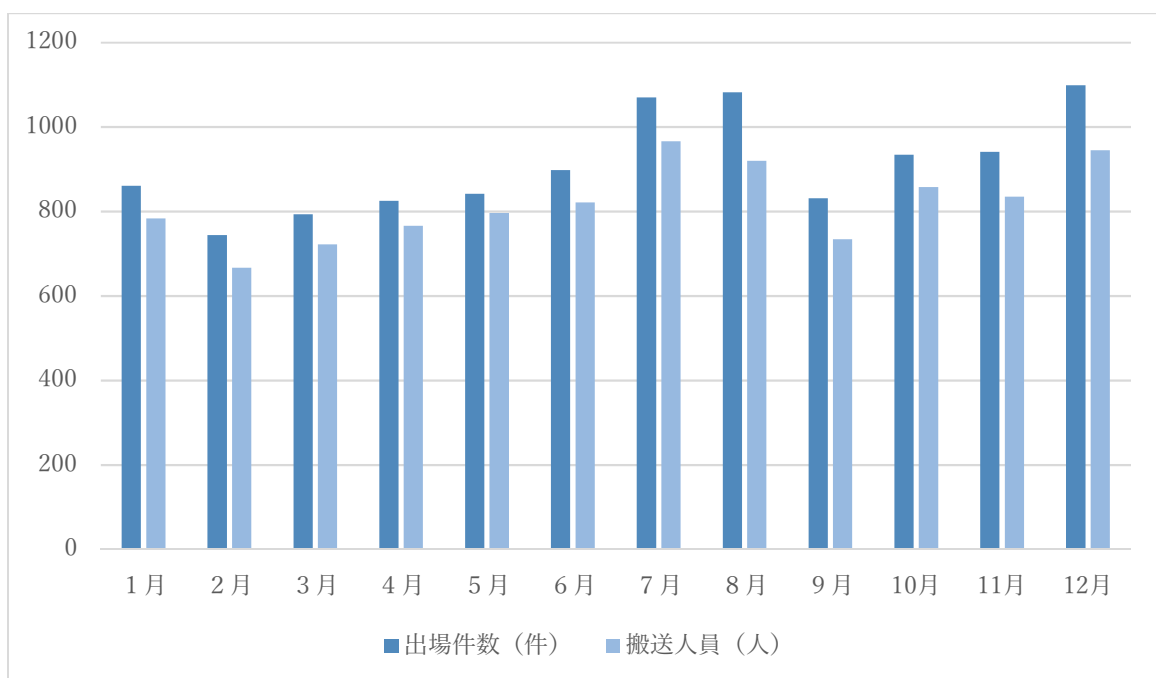
年別	区分 総件数	事故種別														搬送人員
		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				
												転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他	
24	8,120	65	12	3	1,112	90	62	953	56	84	4,586	949	70	1	77	7,709
25	8,130	51			1,100	87	75	937	45	85	4,752	869	48		81	7,658
26	8,097	58			1,007	104	82	913	54	99	4,754	902	33		91	7,578
27	8,397	38	3	2	1,102	78	77	917	42	84	4,940	997	13		104	7,910
28	8,775	48	1	1	1,128	75	83	1,042	37	92	5,225	928	14		101	8,266
29	9,041	42		2	1,104	91	84	1,102	44	80	5,420	932	15	1	124	8,475
30	9,493	48	1	1	1,059	96	96	1,100	34	79	5,872	985	10		112	8,856
R1	9,554	37	1	3	974	90	88	1,117	48	106	5,850	1,029	2	1	148	8,906
R2	8,013	39		1	783	92	55	1,139	28	85	4,911	781			99	7,478
R3	8,964	48		4	856	85	57	1,173	30	89	5,623	898	1		100	8,290
R4	10,920	34		4	906	117	98	1,397	33	107	7,107	904	1	1	211	9,813



3 月別救急活動

(2022年1月～12月)

月別	区分 総件数	事故種別														搬送人員
		火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				
												転院搬送	医師搬送	資器材搬送	その他	
計	10,920	34	0	4	906	117	98	1,397	33	107	7,107	904	1	1	211	9,813
1	861	6			69	7	2	137	7	13	537	71			12	783
2	744	2		1	56	3	3	107	2	8	488	67			7	667
3	793	5			73	6	4	103	4	7	498	84			9	722
4	825	2			81	6	5	108	2	13	504	92	1		11	766
5	842	3			84	10	12	115	1	10	541	56			10	796
6	898	3			66	11	9	108	2	10	590	70			29	821
7	1,070			1	80	16	21	118	3	10	713	81			27	966
8	1,082	4		1	74	16	5	103	4	6	780	60		1	28	920
9	831	3		1	58	8	9	112	2	5	551	66			16	734
10	934	1			73	13	7	111	1	9	612	88			19	858
11	941	2			95	8	14	117	4	7	597	79			18	835
12	1,099	3			97	13	7	158	1	9	696	90			25	945



4 曜日別出場件数、搬送人員

(2022年1月～12月)

曜日 区分	計	日	月	火	水	木	金	土
出場件数	10,920	1,501	1,663	1,481	1,552	1,560	1,602	1,561
搬送人員	9,813	1,339	1,512	1,318	1,413	1,380	1,438	1,413

5 時間別出場件数

(2022年1月～12月)

種別 時間	計	火災	自然 災害	水難	交通	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自傷 行為	急病	その 他
計	10,920	34	0	4	906	117	98	1,397	33	107	7,107	1,117
0～2	468	2			12	1		37	3	10	361	42
2～4	402	1			9			36	4	4	324	24
4～6	420	3			12	1		40	1	4	341	18
6～8	733	2		1	81	2	3	87	1	7	526	23
8～10	1,165	4			139	12	5	158	2	9	704	132
10～12	1,327	8			88	21	9	183	1	8	793	216
12～14	1,290	3			93	26	27	180	2	15	743	201
14～16	1,130	3		1	91	25	19	159	2	8	686	136
16～18	1,251	3			167	18	16	179	3	12	721	132
18～20	1,170	2		2	128	4	10	159	4	16	747	98
20～22	944	2			56	6	7	112	4	10	683	64
22～24	620	1			30	1	2	67	6	4	478	31

6 署所別出場状況

(2022年1月～12月)

区分 署所別	出場件数		搬送人員
	件数	割合(%)	
計	10,920件	100%	9,813人
中央消防署	2,545件	23.3%	2,330人
豊里分署	806件	7.4%	728人
桜分署	1,338件	12.3%	1,193人
並木分署	1,588件	14.5%	1,428人
北消防署	1,194件	10.9%	1,076人
筑波分署	541件	5.0%	479人
南消防署	1,839件	16.8%	1,595人
荏崎分署	1,069件	9.8%	984人

7 現場到着所要時間別出場件数

(2022年1月～12月)

現場到着 所要時間 事故種別	所要時間					計	平均 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	32	29	1,873	4,802	371	7,107	12.0
交通事故	6	7	268	572	53	906	11.8
一般負傷	14	4	410	922	47	1,397	11.5
その他	8	14	528	914	46	1,510	11.1
計	60	54	3,079	7,210	517	10,920	11.6

8 収容所要時間別搬送人員

(2022年1月～12月)

収容 所要時間 事故種別	所要時間						計	平均 (分)
	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分 未満	120分 以上		
急病		13	739	4,957	658	39	6,406	43.3
交通事故			107	702	78	1	888	42.3
一般負傷		9	142	1,027	105	7	1,290	42.6
その他		16	314	731	159	9	1,229	41.6
計	0	38	1302	7,417	1,000	56	9,813	42.4

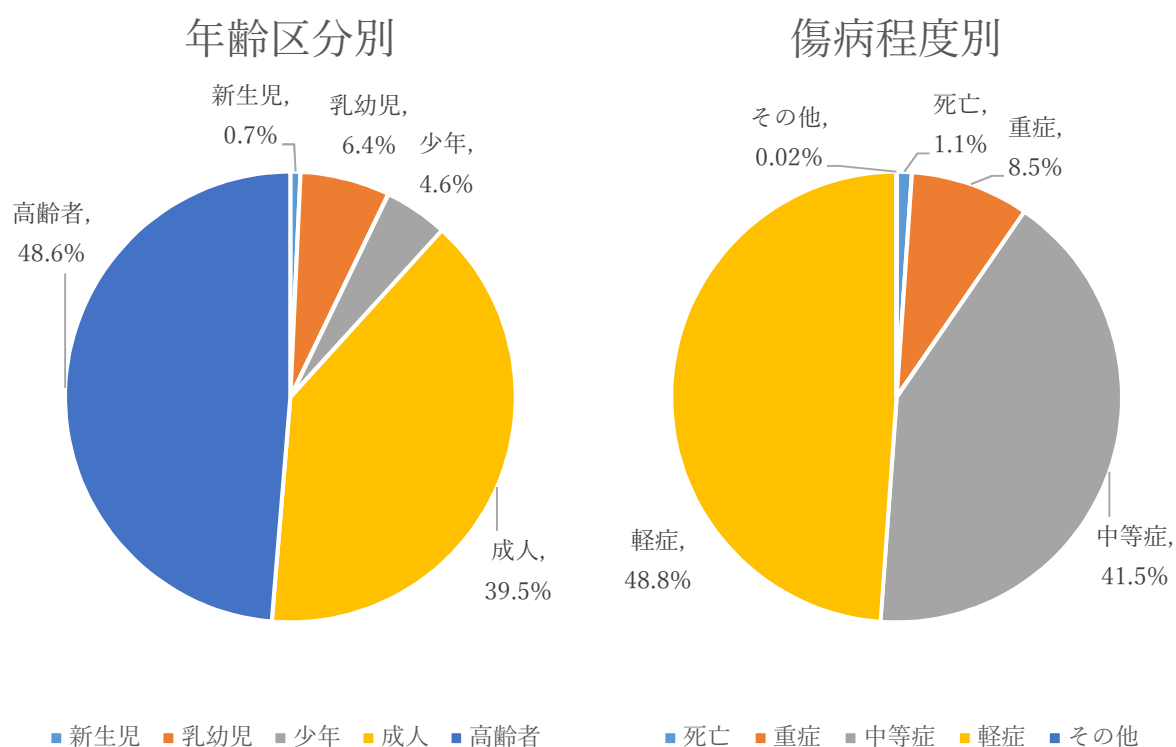
9 年齢区分別及び傷病程度別搬送人員

(2022年1月～12月)

年齢区分 傷病程度	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
死亡	1			25	81	107
重症	2	17	12	230	575	836
中等症	59	164	116	1,280	2,456	4,075
軽症	9	451	321	2,347	1,665	4,793
その他				1	1	2
計	71	632	449	3,883	4,778	9,813

(注) 年齢区分は次による。

- (1) 新生児 生後 28 日以内
- (2) 乳幼児 生後 29 日以上満 7 歳未満
- (3) 少年 満 7 歳以上満 18 歳未満
- (4) 成人 満 18 歳以上満 65 歳未満
- (5) 高齢者 満 65 歳以上



10 救急隊員の行った応急処置件数

(2022年1月～12月)

事故種別	応急処置 対象人員	止血	固定	人工 呼吸	心マッサージ		心肺蘇生	
					総数	うち自動	総数	うち自動
計	9,812	239	368	32	2	0	193	132
急病	6,406	24	13	23	1		158	112
交通	887	47	177	1			5	2
一般負傷	1,290	137	122				11	7
その他	1,229	31	56	8	1		19	11

事故種別	応急処置	酸素 吸入	気道確保		保温	被覆	在宅治療 継続	除細動
			総数	※1				
計		1,584	292	82	5,341	543	22	17
急病		1,205	244	69	3,632	41	19	16
交通		29	8	1	341	125		
一般負傷		50	12	7	644	316	2	
その他		300	28	5	724	61	1	1

事故種別	応急処置	静脈路確保 (輸液)	薬剤 投与	その他の応急 処置	血圧 測定	聴診器による心 音・呼吸音の聴取
計		190	68	9,520	9,101	2,402
急病		169	60	6,239	5,941	1,735
交通		5	1	871	854	278
一般負傷		9	5	1,273	1,195	212
その他		7	2	1,137	1,111	177

事故種別	応急処置	血中酸素飽 和度の測定	心電図	血糖測定	エピペン 投与	ブドウ糖 投与	応急処置計
計		9,617	3,816	187	0	32	43,566
急病		6,262	3,058	176		31	29,047
交通		875	110	5			3,732
一般負傷		1,272	234	4		1	5,499
その他		1,208	414	2			5,288

- ※1
- ・経鼻エアウェイを使用しての気道確保
 - ・喉頭鏡、鉗子等を使用しての異物除去
 - ・救急救命士が器具等を使用しての気道確保
- } を行った件数

11 応急手当て講習会開催状況

(2022年1月～12月)

講習種別	開催回数	受講者数	備考
普通救命講習Ⅰ	135回	1,674人	講習時間3時間
普通救命講習Ⅱ	1回	1人	講習時間4時間
普通救命講習Ⅲ	59回	758人	小児を対象とした救命講習
上級救命講習	0回	0人	講習時間8時間
救命入門コース	32回	473人	小学校高学年・中学生対象
その他の講習	29回	427人	上記以外の講習
合計	256回	3,333人	

第7節 救助編



つくば市消防本部 特別高度救助隊 愛称
ハイパーレスキューOWL

1 事故種別出動及び活動件数

(2022年1月～12月)

事故種別 件数区分	計	火災		交通 事故	水難 事故	自然災 害事故	機械 による 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	破裂 事故	その他
		建物	建物 以外								
出動件数	179	20	5	52	8	0	1	11	5	0	77
活動件数	113	20	5	27	7	0	1	9	4	0	40

2 事故種別救助人員及び車両別搬送人員

(2022年1月～12月)

救助人員 搬送車両区分	事故種別 計	火災		交通 事故	水難 事故	自然災 害事故	機械 による 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	破裂 事故	その他	
		建物	建物 以外									
救助人員	102	5	0	35	6	0	1	11	2	0	42	
搬送車両等の内訳	計	58	3	0	28	0	0	1	4	2	0	20
	救急自動車	54	3		28			1	4	2		16
	消防機関以外の車両等	4										4

※ ヘリコプターで搬送した人員を「消防機関以外の車両等」に加えて計上した。

3 事故種別出動人員及び活動人員

(2022年1月～12月)

出動人員 活動人員	事故種別 計	火災		交通 事故	水難 事故	自然災 害事故	機械 による 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	破裂 事故	その他	
		建物	建物 以外									
出動人員	計	2,255	197	33	788	108	0	15	138	64	0	912
	専任救助隊員	685	121	17	190	30		3	37	17		270
	兼任救助隊員	129	3		12				3			111
	消防隊員	859	16	1	366	63		9	68	32		304
	救急隊員	582	57	15	220	15		3	30	15		227
活動人員	計	887	83	17	233	74	0	0	69	37	0	374
	専任救助隊員	318	68	10	73	26			21	10		110
	兼任救助隊員	97			3				3			91
	消防隊員	253	3	1	89	39			28	21		72
	救急隊員	219	12	6	68	9			17	6		101

4 事故種別出動車両台数

(2022年1月～12月)

事故種別 車両区分		計	火災		交通 事故	水難 事故	自然災 害事故	機械 による 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	破裂 事故	その他
			建物	建物 以外								
計		665	68	10	205	38	0	5	41	21	0	277
出 動 車 両 等	救助工作車	183	25	5	54	8		1	11	5		74
	消防ポンプ自動車	35			8	2			3	2		20
	はしご車	35	19		2							14
	化学車	1										1
	指揮車・指令車	213	5		68	18		3	17	9		93
	救急自動車	193	19	5	73	5		1	10	5		75
	その他	5				5						

※ボート隊の出動件数を車両区分中「その他」の欄に加えて計上した。

5 事故種別活動車両台数

(2022年1月～12月)

事故種別 車両区分		計	火災		交通 事故	水難 事故	自然災 害事故	機械 による 事故	建物等 による 事故	ガス及 び酸欠 事故	破裂 事故	その他
			建物	建物 以外								
計		277	29	5	74	28	0	1	25	12	0	103
活 動 車 両 等	救助工作車	92	16	3	24	7			8	3		31
	消防ポンプ自動車	24			4	2			2	1		15
	はしご車	10	8		1							1
	化学車	0										
	指揮車・指令車	63			12	14			8	6		23
	救急自動車	85	5	2	33	2		1	7	2		33
	その他	3				3						

※ボート隊の活動件数を車両区分中「その他」の欄に加えて計上した。

第 8 節 消防団編



1 消防団の沿革

昭和 62 年	11 月	筑波郡大穂町・谷田部町・豊里町及び新治郡桜村の 3 町 1 村の合併に伴い、「つくば市消防団」と名称を変更し、タッチゾーン方式により独立した消防団となり、4 人の団長となる。
昭和 63 年	1 月	筑波郡筑波町との合併により、旧 5 町村 5 人の団長となる。
平成 3 年	4 月	消防団の機構改革を行い、1 市 1 団となり、組織は団本部・5 支団・60 分団・団員数 957 人となる。 初代団長に大塚光（旧大穂町団長）、副団長に小林貞夫（旧豊里町団長）宮本吉三（旧谷田部町団長）、吉田利男（旧桜村団長）、石島正三（旧筑波町団長）が就任する。
平成 14 年	11 月	つくば市に稲敷郡茎崎町が編入合併により、6 支団・81 分団・団員数 1,332 人となる。 つくば市行政組織が再編され「市民環境部消防交通課」から「つくば市消防本部地域消防課」に事務局を移転する。
平成 16 年	4 月	筑波支団の組織改編により 75 分団・団員数 1,331 人となる。
平成 19 年	4 月	茎崎支団の組織改編により 62 分団・団員数 1,196 人となる。
平成 20 年	4 月	桜支団の組織改編により 40 分団・団員数 1,197 人となる。
平成 21 年	10 月	消防団の更なる組織の充実と強化のため、女性 40 人が入団し、女性支団を結成する。 女性支団の結成により団本部・7 支団・46 分団・団員数 1,259 人となる。
平成 22 年	3 月	初代消防団長大塚光退任する。
	4 月	倉持政博（副団長）消防団長に就任する。
平成 26 年	4 月	消防団員の条例定数を、1,200 人に改める。
平成 27 年	4 月	澤辺稔（副団長）消防団長に就任する。 桜支団の組織改編により 51 分団・団員数 1,132 人となる。
平成 28 年	4 月	桜支団、女性支団の組織改編により 48 分団・団員数 1,095 人となる。
平成 29 年	4 月	消防団員資格に、通学者を加える。
平成 31 年	4 月	土信田政司（副団長）消防団長に就任する。 つくば市消防団の組織改編により、女性支団が本部付分団となる。 団本部・6 支団・47 分団・団員数 1,041 人となる。
令和 5 年	4 月	銭谷幸男（副団長）消防団長に就任する。

2 消防団員数

(2023 年 4 月 1 日現在)

計	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
877	1	21	66	47	46	137	559

※ 支団長・副支団長は副団長の階級に、指導員は分団長の階級にそれぞれ属す。

3 年齢・階級別消防団員数

(2023年4月1日現在)

年齢 \ 階級	計	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
計	877	1	21	66	47	46	137	559
18～20歳	2							2
21～25歳	14				1	0	2	11
26～30歳	35				2	2	4	27
31～35歳	64			2	1	4	16	41
36～40歳	145			15	11	10	30	79
41～45歳	227			15	15	17	45	135
46～50歳	220		1	21	10	11	29	148
51～55歳	108		2	12	5	1	4	84
56～60歳	35		6	0	1	1	4	23
61歳以上	27	1	12	1	1		3	9

※ 支団長・副支団長は副団長の階級に、指導員は分団長の階級にそれぞれ属す。

4 消防団配備等の現況

(2023年4月1日現在)

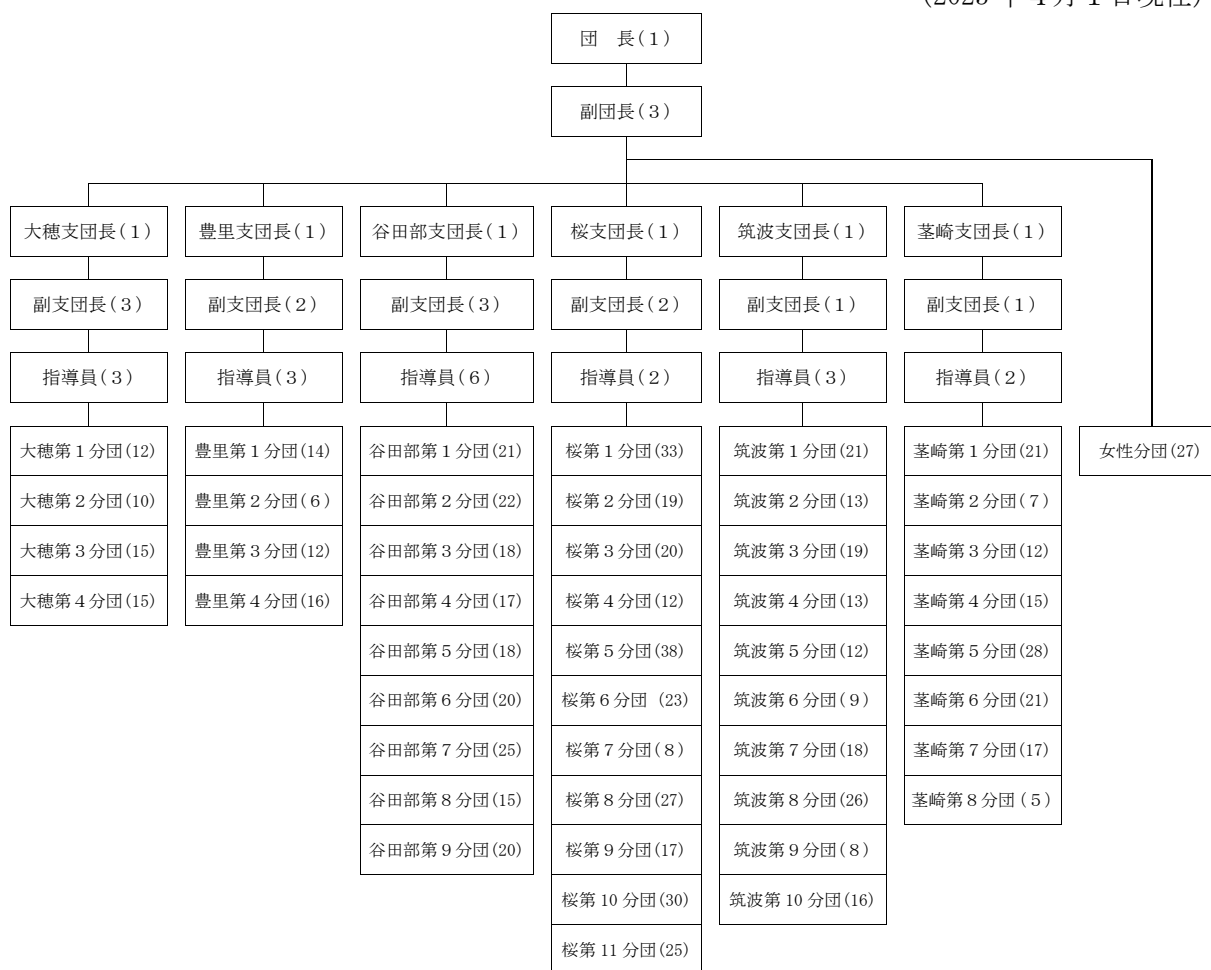
区分	分団数	実員数	消防ポンプ自動車 (水槽付)	消防ポンプ自動車	可搬ポンプ積載車	指令車	連絡車
本部役員		41					
大穂支団	4	52	2	3			
豊里支団	4	48		4			
谷田部支団	9	176		9	注1 1		
桜支団	11	252	2	注2 9			
筑波支団	10	155	1	11			
荃崎支団	8	126		8	1		
女性分団	1	27					
非常備消防管理						2	1
合計	47	877	5	44	2	2	1

注1：消防団多機能型車両

注2：内1台、救助資機材搭載型消防ポンプ自動車(消防庁貸付車)

5 消防団組織体制

(2023年4月1日現在)



※ () 内は人数

消防団実員数 (条例定数 1,200 人)

役 職	実動数 (うち女性)
団 長	1
副 団 長	3
支 団 長	6
副 支 団 長	12
指 導 員	19
分 団 長	47(1)
副 分 団 長	47(1)
部 長	46
班 長	137(6)
団 員	559(20)
合 計	877(28)

6 火災出場件数及び出場人員

(2022年1月～12月)

	出 場 件 数	出 場 人 員
大 穂 支 団	14 件	158 人
豊 里 支 団	8 件	118 人
谷 田 部 支 団	18 件	1,071 人
桜 支 団	15 件	142 人
筑 波 支 団	13 件	216 人
荃 崎 支 団	3 件	56 人
計	71 件	1,761 人

7 女性分団活動状況

(2022年1月～12月)

	活 動 回 数	活 動 人 員
応 急 手 当 講 習	0 件	0 人
幼 児 防 火 教 室	0 件	0 人
研 修 会 ・ 啓 発 イ ベ ン ト 等	4 件	34 人
会 議 ・ 訓 練 等	9 件	37 人
計	13 件	71 人



アスファルトにも負けない

ホシザキユキノシタのように…

消 防 本 部

〒305-0817
茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1

TEL 029-851-0119 (代)
FAX 029-851-0138
E-mail
fst010@city.tsukuba.lg.jp

消 防 総 務 課

同 上

TEL 029-851-3970
FAX 029-852-1710

予 防 広 報 課

同 上

TEL 029-851-2633
FAX 029-852-1475

消 防 救 助 課

同 上

TEL 029-851-2042
FAX 029-851-0091

救 急 課

同 上

TEL 029-851-0011
FAX 029-851-0091

消 防 指 令 課

同 上

TEL 029-851-0119
FAX 029-851-0138

地 域 消 防 課

同 上

TEL 029-883-1182
FAX 029-868-7583

中 央 消 防 署

〒305-0817
茨城県つくば市研究学園一丁目1番地1

TEL 029-851-1691
FAX 029-851-3973

中央消防署豊里分署

〒300-2645
茨城県つくば市上郷606番地

TEL 029-847-8639
FAX 029-847-8643

中央消防署桜分署

〒305-0018
茨城県つくば市金田2040番地2

TEL 029-857-4150
FAX 029-857-4724

中央消防署並木分署

〒305-0044
茨城県つくば市並木一丁目2番地3

TEL 029-861-0123
FAX 029-861-0136

北 消 防 署

〒300-4246
茨城県つくば市上沢3番地

TEL 029-867-2355
FAX 029-867-2327

北消防署筑波分署

〒300-4353
茨城県つくば市沼田644番地

TEL 029-866-0176
FAX 029-866-0653

南 消 防 署

〒305-0856
茨城県つくば市観音台一丁目25番地3

TEL 029-838-0279
FAX 029-838-0262

南消防署荃崎分署

〒300-1255
茨城県つくば市小荃563番地1

TEL 029-876-1089
FAX 029-876-1784